



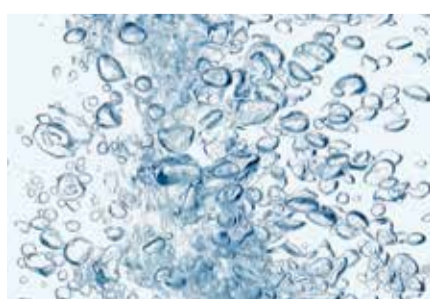
BRITAグループ // 2018年

# Corporate Responsibility レポート

私たちは企業として  
この世界のバランスと  
その生態系を維持するため  
どのように貢献できるのでしょうか？

# BALANCE OUR IMPACT

BRITAは、たとえ些細な対応策でも、私たちの  
そうした行動が環境や人々、社会に必ず好影響を及ぼすという  
当社の大いなる目標の重要なステップになると確信しています。私たちは世界の海で  
プラスチック廃棄物の量が増えていることを人々に伝えて、自分たちの行動を変えるきっかけになることに  
情熱を持って取り組んでいます。さあ、私たちと一緒に持続可能な世界への道筋を進みましょう。



## 資源保護

この世界が少しでも良い場所  
となり持続可能性が高まるよう  
BRITA 製品が貢献しているのは  
なぜでしょう。



## 私たちは BRITA

BRITA が従業員を気遣い、彼ら  
の処遇への努力を行うのはなぜ  
なのでしょうか。



## 同じ考え方に 立つ

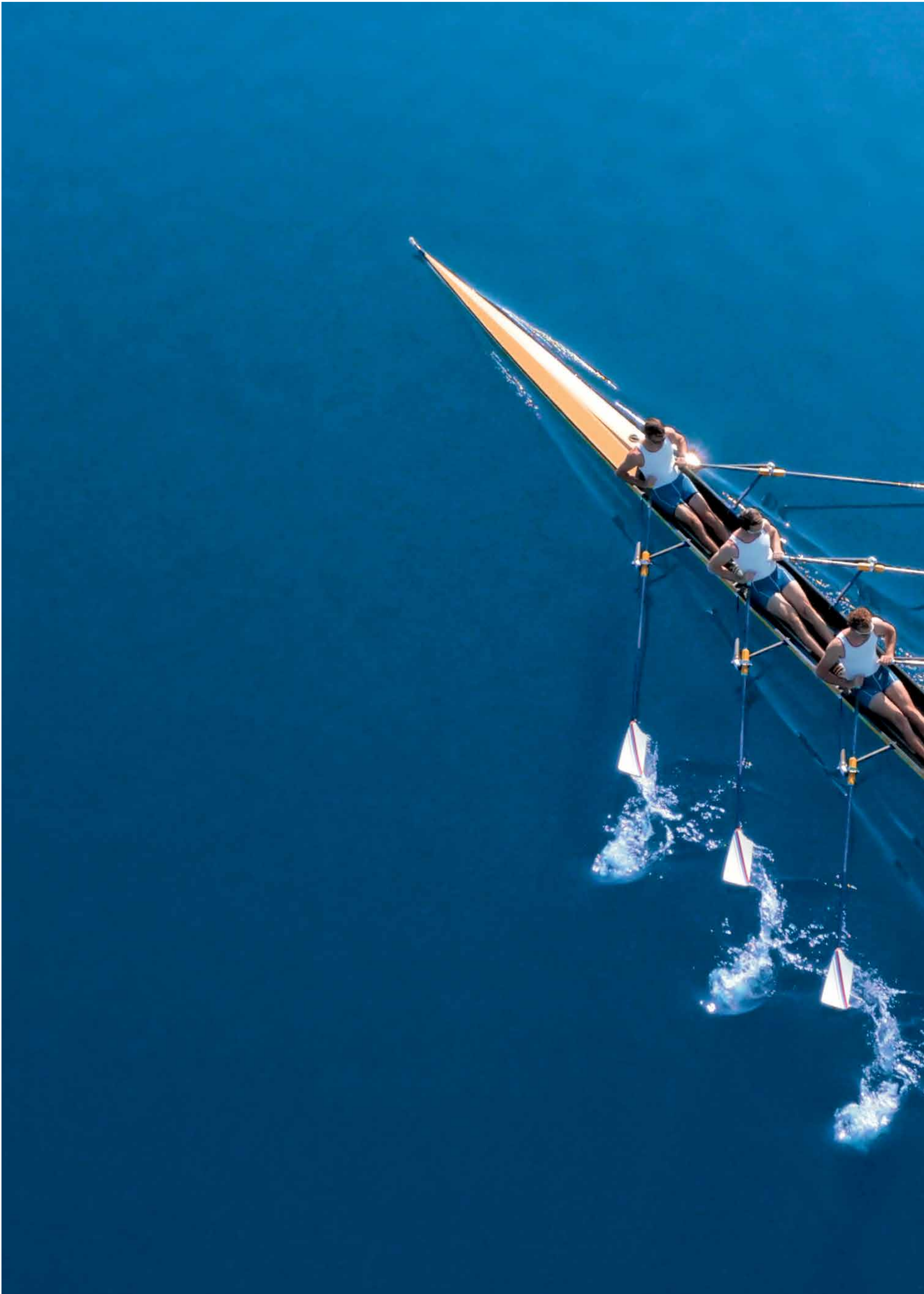
私たちが世界の海でプラスチック  
廃棄物が増えていることを人々  
に伝える努力を行っているのは  
なぜなのでしょうか。

# 01 # BAL ANCE OUR PRO DUCT

世界中の人々がBRITA製品を高く評価しています。それは当社の製品が一人一人の好みや要望に応じて、美味しい飲料水を求める彼らのニーズに信頼できる形で応えているからです。また、BRITA製品を使用する全ての人による資源節約で、持続可能な世界を創りあげています。









# 02 #

# BALANCE OUR PEOPLE

企業は、一人一人の従業員が最善の努力をした場合にのみ、持続的に成功することが可能です。同族経営企業であるBRITAは、従業員一人一人の活力、プロ意識、献身性、創造性が貴重な個人の資産であり、企業がそれに責任をもつことを認識します。

# 03 # BAL ANCE OUR PLA NET

BRITA製品は資源保護に役立っています。しかし、BRITAにとっての企業責任には、電力の有効活用、カートリッジリサイクル、環境プロジェクト活動等による環境負荷オフセットも含まれます。  
今、BRITAは世界の海と、そこに生活する生物をプラスチック廃棄物から守ることにフォーカスしています。





A portrait of a middle-aged man with a shaved head, a light beard, and blue eyes. He is wearing black-rimmed glasses, a white collared shirt, and a grey suit jacket. He is smiling slightly and looking directly at the camera. The background is a blurred office hallway with circular lights.

**BAL  
ANCE  
OUR  
IM  
PACT**





## このレポートをご覧くださいの皆さんへ

当社初の企業責任レポートをこの様な体裁に纏めることが出来たのは、つい最近のことのように感じられますが、実際には当社の創立 50 周年記念にあたる 2016 年のことでした。そして今、その第 2 版が皆様のお手元にあります。この最新レポートでは、数多くの活動的な内容と共に 2016/17 年のイベントについてご報告しています。是非読み進めていただき、数々のニュースを発見いただければ幸いです。

当社の記念すべき年を祝うにあたり、私たちは極めて特別な非営利団体であるクジラ・イルカ保護協会 (WDC) と新たなパートナーシップを締結しました。当社がクジラとイルカを保護するこの世界最大の非営利団体を知ることになったのは 3 年前のことで、彼らが展開した *Less Plastic is More* (省プラスチックをさらに推進しよう) キャンペーンによってでした。このキャンペーンの目的は、世界の海では 2050 年までにプラスチックの量が魚よりも多くなるという恐ろしい予測が現実化するのを回避することです。BRITA の全社員はこのメッセージを耳にしてショックを受け、愕然としました。私たちは WDC に貢献して彼らのキャンペーンをサポートすることを決めました。この WDC キャンペーンは人々がそれぞれの行動を振り返り考え直すため、必要な使い捨てプラスチックの消費がもたらす重大な結果とプラスチック廃棄物による汚染について説明しようという取り組みです。

それから 2 年の間に、皆さんはこのテーマがどのように人々の話題になっているのか、その状況にますます気づいているに違いありません。WDC のようなイニシアチブや当社といった企業だけでなく、世界中の意を決した人たちがソーシャルメディアを利用してこの汚染がすでに達しているレベルや海洋生物にとっての恐ろしい結果、私たち人類に関わる健康リスクについて発信しています。

こうした事実は読むにつけ見るにつけあまりにも苦痛なものです、それがきっかけとなり人々を行動へと駆り立てすでに数多くの実用的で影響を及ぼす取り組みへとつながっているのです。現在、市町村や地方行政体は使い捨てプラスチックを禁止する過程にあり、消費者はますます代替品を求めようになり、対応策の数も継続的に増えています。当社のビジョン「人々の水の飲み方を、持続可能な方法で変えていきます」を掲げる私たち BRITA の大家族は明確な目標を念頭に置き、家の中でも、外出中でも、あるいは接客ビジネスやオフィス、病院、学校であれ、ペットボトルの水に代わる持続可能な代替品を人々に提供するその道筋を着実に歩み続けていきます。

昨年、当社は 50 周年記念を祝いました。これは当然のことながら、一旦立ち止まってこれまでの足跡を評価し、その一方で来たる 50 年に向けて踏み出す機会でもあるのです。振り返ってみると、私たちは多くのことを成し遂げてきました。BRITA はポット型浄水器という全く新しいカテゴリを発明した先駆者だけでなく、世界中で何百万ものユーザーから信頼される飲料水の最適化/パーソナル化市場で唯一のグローバルブランドとなっています。そうしたユーザーのために、私たちは大きな責任を感じています。BRITA 独自のノウハウを用いて製品イノベーションと国際化を結びつけることで、当社はグローバルプレーヤーとして複数の製品を有する企業へと発展してきました。

しかし、それと同時に当社は同族経営であり続け、それ自体が大家族であると考え、5 つの大陸すべてで協力し合っています。そして今、新しい時代の幕開けを迎えています。当社の企業戦略である *BRITA 2020 - Conquer New Waters* は、将来に向けたこの旅路に関する重点事項と明瞭さを私たちにもたらしています。こうした変革期にあって頼りになる拠り所は当社のファミリービジネス文化であり、そこでは持続可能性の原則と当社従業員のコミュニティに対するコミットメントが深く根ざしています。

**当社のビジョンである「人々の水の飲み方を、持続可能な方法で変えていきます」を掲げる私たち BRITA の大家族は明確な目標を抱き、家の中でも、外出中でも、あるいは接客ビジネスやオフィス、病院、学校であれ、ペットボトルの水に代わる持続可能な代替品を人々に提供するその道筋を着実に歩み続けていきます。**

BRITA では何かが始まるのはいつでも当社のイノベーションハブである研究開発部門ですが、私たちは年間売上高の 5 パーセントを毎年この部門に投資しており、その結果多数のイノベーションが市場にもたらされているのです。この 2 年間で、この部門はさらに拡大しました。

そのため、例えば、過去 2 年間だけでも、当社は一般消費者向けフィルターカートリッジの次世代である MAXTRA+ (マクストラプラス) を発売するだけでなく、業務用のフィルター・水道管直結型ウォーターサーバーも大幅に拡大することができました。また、新アジア市場に触発され、mypure (マイピュア) 製品群のウルトラ浄水システムにより技術面で大躍進を遂げ、今やバクテリアやウイルスも浄化できるようになっています。

アジアは私たちがまさに望んでいた通り、極めて短期間で当社の「第 2 の拠点」となりました。2017 年には、中国が 3 年連続で BRITA にとって最も有力な消費者市場となり、日本も同じ年に大躍進しました。また台湾や香港、韓国でも精力的に事業を展開しており、インド亜大陸では独子会社で将来的に有望な最初の段階を踏んでいます。アジアでの需要増に迅速かつ効率的に 대응するため、BRITA はドイツ品質基準と一致した当社で 5 番目となる最新の製造工場を中国の蘇州で建設しました。この工場は 2017 年 8 月に操業が開始されています。

このレポートでは、こうした話題すべてに関する最新の事実と数値を確認することができます。もちろん、当社製品について多くのことを読み取ることができ、BRITA と当社が実践するあらゆることが世界中にいる当社従業員からどれくらい大きな影響を受けているのか、また従業員やその職場がどのように継続して発展しているのか、さらには研究、発見、製造、共に働くことの方法について理解を深めることも可能です。そしてもちろんのこと、例えば当社初のマテリアリティ (重要課題) 分析とその結果に基づき定められた行動の分野についてなど、当社が企業責任の分野で前回レポート以降に成し遂げてきた継続的な進展状況を確認することもできます。あるいは、BRITA CR 方針、製品開発における企業責任テーマの統合、当社カーボンフットプリントの最新情報と拡大に関する取り組みも同様です。

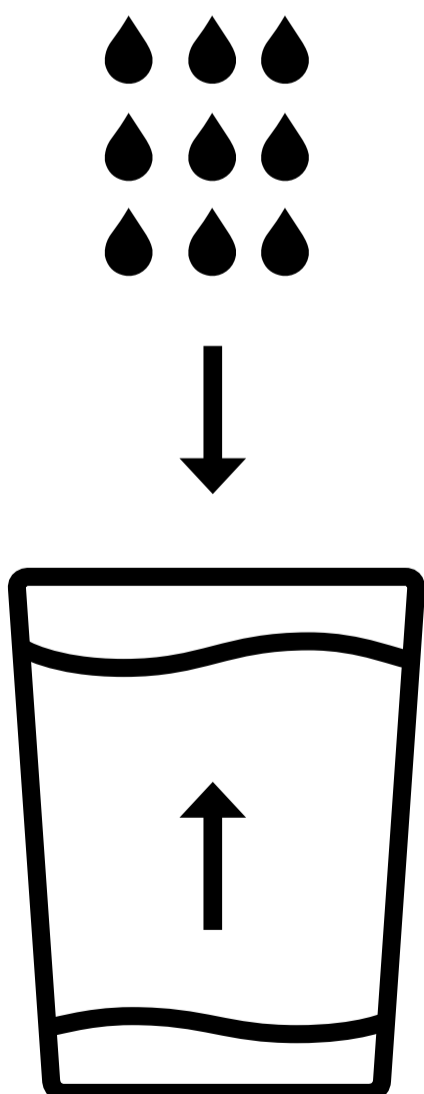
クジラ・イルカ保護協会に関しては、その組織や取り組み、同機関が研究と保護にあたっている生物について知ることができるため、持続可能な消費を入念に考えるだけでなくそれに従った生活を始めることがどれほど重要なのか一層理解が深まることでしょう。そこで、最後に私からの呼びかけで締めくくりたいと思いますが、その呼びかけは BRITA の私たち全員への呼びかけであり、皆さん一人一人への呼びかけでもあります。こうした目標に向かってともに一歩ずつ、

**一滴ずつ前進しましょう。**

皆さんに

心を込めて  
マーカス・ハンカマー

## 持続可能性に向けて一滴ずつ



このレポートで示されている対応策はシンボルとしての水滴に置き換えられています。これ以降、こうした水滴がカラーコード化された情報ボックスと各ページの末尾に表示されます。本レポートをさらに読み進めていくにつれ、水滴はそれに応じてコップをより満たしていきます。

# 目次

# 企業



## 01 # 製品

- 12 **BRITAグループの責任**  
BRITA成功物語の背景にある事実関係および数値。
- 14 **ブリタにおける企業責任**  
信念から戦略まで。  
BRITAは企業責任の領域でどのように進展しているのか。
- 15 **利害関係者との相互関与**  
BRITAは対話する。  
対話は当社が重要なビジョンを得て市場発展を見続ける為に必要。

- 16 **一口飲む水から**  
BRITAの水を飲むこと、それは資源を守ること。
- 18 **それを発明したのはBRITA**  
単一製品の発明からイノベーションハブまで。  
イノベーションは当社のDNAにあります。
- 19 **東洋と西洋の出会い**  
アジアに進出するBRITA。  
当社は今や中国の自社工場でも製造。
- 19 **企業価値維持のために**  
成功するアイデアは模倣されることも多い。  
BRITAの効果的な反海賊製品／権利侵害キャンペーン。
- 20 **先駆者としての取り組み：BRITAにおけるカートリッジのリサイクル**  
25年以上フィルターカートリッジのリサイクルで業界をリード。
- 20 **数々の受賞歴！**  
BRITA製品は単に革新的で実用的である以上の存在。BRITA製品は技術とデザインで数々のアワードも受賞。
- 21 **ハートのスペシャリスト**  
仕事の現場を見る：BRITA水処理チームの開発者。
- 22 **製品についての責任**



# BRITA グループ の責任

## 2020年までのステップ

- 飲料水の最適化／パーソナル化技術分野の製品イノベーションと研究開発に一貫して取り組みます
- 企業統合と海外進出により水道管直結型ウォーターサーバーの有望分野を継続して発展させます
- アジアに重点を置いて海外市場にさらに進出します
- CRプログラムと追加措置の形態で企業責任をさらに構造化します

## これがBRITA

BRITAは飲料水の最適化とパーソナル化の分野で世界的に有名な専門メーカーです。2016年に、国際的に成功しているドイツの中規模同族企業である当社は50周年記念の年を迎えました。1970年にポット型浄水器を発明したハインツ・ハンカマーは特定需要市場を見だしその市場を一貫して創造してきました。現在、BRITAはタウンヌシュタインの本社から世界中の事業活動を管理しており、長年にわたり極めて多様な顧客基盤のためにオーダーメイドの製品ソリューションを提供するマルチプロダクト企業へと発展してきました。

## BRITAのビジョン

「人々の水の飲み方を、  
持続可能な方法で  
変えていきます」

## BRITAのミッション

「それぞれの期待に沿った、  
最高の飲料水体験を  
すべての人に提供します」

## 当社の価値観

同族経営企業であるBRITAは  
首尾一貫して価値観を重要視してきました。  
企業としては急速に発展力強い成長を遂げていますが、  
この点については何も変わっていません。  
これからもその姿勢は変わらず続いています。  
経営陣と全従業員は極めて特別な価値観が  
当社の根幹を成すものであり、ビジネス戦略と同様に  
当社の成功に多分に貢献していることを理解しています。

## 活動範囲



## 製品群

「それぞれの期待に沿った、最高の飲料水体験をすべての人に」というBRITAのミッションと一致したサービスを提供するため、BRITAはこれまでその製品群を拡大し続けてきました。あらゆる製品の目標は技術面、品質面、デザイン面で他をリードする存在になることです。

### 家庭用製品 (消費者向け BRITA 製品)

- BRITA fill&enjoy – ポット型浄水器
- BRITA fill&go – 携帯型浄水ボトル
- BRITA fill&serve – カラフェ型浄水器
- BRITA fill&boil – ホット用浄水器
- 蛇口または BRITA ウォーターバー直結の浄水システム
- BRITA 統合型ソリューション – ケトルやコーヒー・エスプレッソマシンなどパートナー社製の家庭用器具に組み込まれたフィルターカートリッジ

### 商用製品 (業務用 BRITA 製品)

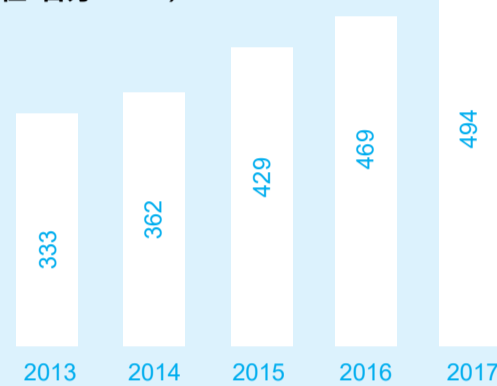
- 商用フィルターソリューション：コーヒー・エスプレッソマシン、自販機、スチーム器具、食洗機およびウォーターサーバー
- ターゲット層企業オフィス、工場など、ホテル・レストラン・カフェ（接客業、ホテル業界、ケータリングなど）およびヘルスケア（病院、ケア施設など）を対象とした、浄水、冷水、炭酸水およびお湯の水道直結型ウォーターサーバー

## 売上高の進展

2017年に、全五大陸の60ヶ国以上の地域で28の子会社と支店、5ヶ所の生産拠点、流通販売・業界パートナーを擁するBRITAグループは4億9,400万ユーロ（為替差異の調整後：5億400万ユーロ）の総売上高を上げました。これは前年比で5.3パーセント増（為替差異の調整後：7.5パーセント増）の増収となっています。総売上高の84パーセントはドイツ国外で計上されています。

消費者分野の家庭用製品は3億5,500万ユーロとなり、グループ総売上高の72パーセントを占めました。三大市場は中国、英国、ドイツでした。ホテルやレストラン、接客業、自販機業界向けの製品ソリューション、さらにはオフィスや学校、病院、接客ビジネスを対象とした水道直結型ウォーターサーバーを擁する専門業務部門は総売上高の28パーセントとなる1億3,900万ユーロの売上高を生み出しました。この分野では、ほとんどの製品がドイツ、英国、スイスで購入されています。従業員数の伸びもこの成長を反映しています。2017年末時点で、BRITAで働いている全世界の従業員は1,827人（7.5パーセント増）で、そのうち942人はドイツ（5.8パーセント増）となっています。

売上高(単位:百万ユーロ):



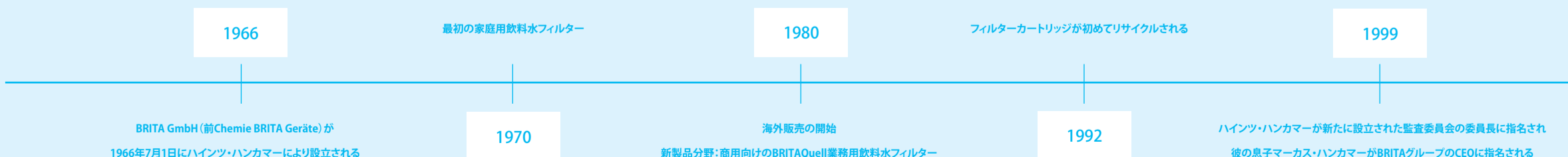
## グローバルブランド

10年以上にわたり、BRITAはその売上高の80パーセント超をドイツ国内市場以外で上げています。当社が事業を展開する海外市場は各市場特有の消費行動や要件があり、BRITAブランドの製品・技術イノベーションにとつてますます強力な推進要素となっています。

アジアへの地域進出はここ数年その進展で成功を収めてきました。ここでの目的は「第2の本社」を生み出すことです。これまでのところ、数字がその状況を物語っています。2017年に、中国は3年連続でBRITAにとって最も有力な消費者市場となりました。さらに、BRITAは台湾や香港、韓国でも事業展開が極めて成功しており、また日本では長年にわたりそうした状況にあります。さらに2017年には、インドのバンガロールにBRITA India Water Solutions Private Lid.を設立しました。

製品面では、水道直結型ウォーターサーバー、特にそのフィルターカートリッジの分野で一連のイノベーションが数多くありました。具体的には、とりわけ新鮮な味わいをもたらすマルチステップ濾過機能があるCLARITYフィルターカートリッジ製品群、市場で他に例を見ない存在である衛生的なコンセプトのSodamaster（ソーダマスター）水道直結型ウォーターサーバー、家庭用のyourceウォーターバーなどが挙げられます。家庭用に関しては、水道直結サーバーの開発技術により、最終消費者もボタン一つで冷水や炭酸水、お湯といったおいしくて新鮮な飲料水を飲むことが出来るようになりました。

新しいmypure（マイピュア）ウルトラ濾過システムで、BRITAは2017年にそのシステムで急成長しているアジア市場にも参入し、今や汚染物質だけでなくバクテリアも削減する製品を提供できるようになっています。BRITAは2018年初めに台湾で発売されたmypureプロフィルター製品群でさらに前進しています。この製品にはモジュラーシステムが組み込まれて水垢を削減し、顧客それぞれのニーズに応じて粒子やバクテリア、ウイルスさえ濾過します。これらは、新たな研究開発分野において、大きな推進力となっています。そのため、BRITAブランドと世界中のBRITAユーザーは将来的に大いに恩恵を受けることができるのです。







これらの活動分野が BRITA CR プログラムの中核となっています。当該分野は様々な既存の活動や将来的な活動を分類しそれらを優先順位をつけ、各分野で体系的に取り組む上で役立っています。重要性分析の結果と活動分野の識別により BRITA はすでに関連分野の多くに関与してイニシアチブをとっていることが示されています。また、優先順位をつけ、企業責任を果たすための取り組みを追加する可能性がどこにあるかを示している。将来的には、運営委員会で具体的な目標を設定し、ブリタグループ全体に展開していきます。

## 新 CR 会議

当社における社会的責任への理解をさらに深めて持続可能性の問題解決への共通アプローチを見出すため、BRITA は 2018 年に CR 会議を設置しました。定例会議では、全ビジネス部門の代表が招集されて、企業責任に関する情報を収集しそれぞれのアイデアや提案を出し各部門の枠を超えて BRITA の重要について話し合っています。

こうした部門間にまたがる交流は、サイロ思考を防止し現在も将来的にも BRITA にとって重要な分野における協力の支えとなっています。CR 会議の結果は、その後運営委員会で執行会メンバーと協議されています。その意図は CR 会議の原則を BRITA グループ全体に拡大することです。

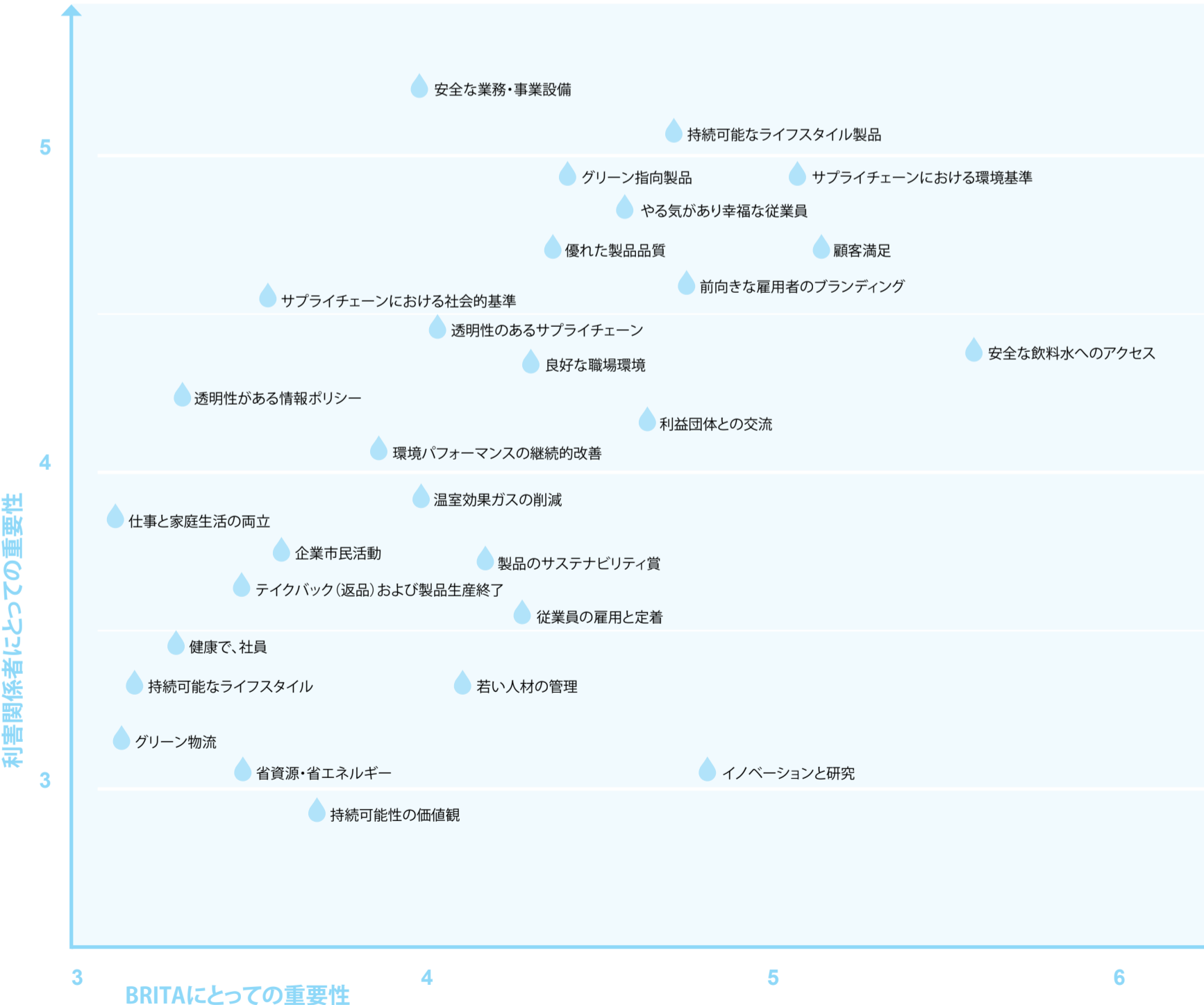


## 将来を見据える

BRITA の CR プログラムは経営陣トップと関連部門が関与して策定されています。その目的はこれまで実施されてきたさまざまな措置を、生かされた責任を暗黙のうちに理解し、体系的に導くことにあります。また、BRITA としてまだ改善の余地がある問題の枠組みを提供することにもなります。そうして、企業責任は目標指向で実際的な方法により確実に組織内に取り入れられます。関係する地域によっては、このプロセスに時間が

かかる場合もありますが確実なことが一つあります。それは、企業の責任がその背景にある全社会的な力で実行され経験されるということです。短期的な計画には CR ポリシーの採用と重点事項や目標を伴う CR プログラムの段階的な拡大などが含まれます。利害関係者の要件も、BRITA の戦略目標と BRITA のような世界規模の急成長を遂げる企業に立ちはだかる課題とともにこのプロセス中に考慮されます。

## マテリアリティ分析の連結結果



# 利害関係者との相互関与

BRITA は例えばソーシャルメディアサイトや会議、展示会などを介してサプライヤー、ビジネスパートナー、消費者、規制当局といったステークホルダーとの継続的な対話を維持しています。こうした関わり合いは、とりわけ企業責任に関連した問題での重要なフィードバックを当社にもたらしています。将来的な目標は重要な利害関係者との間で持続可能性に関わる具体的な問題を話し合うことです。当面の間は、社内コミュニケーションを強化して BRITA グループへの企業責任の浸透に注力していきます。

BRITA は中核ビジネスに関連した数々の国内外ネットワークや協会、組織で積極的に活動しています。そのため、当社は様々な利益団体や利害関係者と関わり合う興味深い機会がもたらされると同時に既存の専門性を深めることもできるのです。そうした外部との接触はビジネスの新たな勢いをもたらし、業界内の動向を注視し続ける上で役立っています。

## BRITAが加盟するメンバーシップ(抜粋):

- AGV - ヘッセ州化学・関連業界雇用者協会 (Employer's Association of the Chemical and Related Industries for the State of Hesse: HessenChemie)
- BDS - システムガストロノミー連邦協会 (Federal Association for System Gastronomy)
- BDV - ドイツ自販機業界連邦協会 (Federal Association for the German Vending Industry)
- BLL - ドイツ食品法・食品科学連合 (German Federation for Food Law and Food Science)
- DGE - ドイツ栄養協会 (German Nutrition Association)
- DGFP - ドイツ人事管理協会 (German Association for Personnel Management)
- FIGAWA - ガス・水分野ドイツ企業協会 (German Association of Companies in the Gas and Water Sector)
- Forum Trinkwasser e.V. (飲料水フォーラム)
- ドイツ水パートナーシップ (German Water Partnership)
- GWCA - ドイツ冷水器協会 (German Water Cooler Association)
- HKI - 住宅・暖房・厨房技術産業協会 (Industrial Association of House, Heating and Kitchen Technology)
- IKV - 産業プラスチック処理・熟練技能協会 (Institute for Plastics Processing in Industry and the Skilled Crafts)
- Markenverband e.V. (ドイツブランド協会)

## 国際:

- 自販機協会 (Automatic Vending Association: 英国)
- ASCA - オーストラリアスペシャルティコーヒー協会 (Australian Specialty Coffee Association: オーストラリア)
- グリーンレストラン協会 (Green Restaurant Association: 米国)
- SCA - スペシャルティコーヒー協会 (Specialty Coffee Association: グローバル)
- 接待業・フードサービス協会 (Society for Hospitality and Foodservice: 米国)







## 世界中にいる数多くの顧客は、資源を削減する取り組みや BRITA の浄水がもたらす様々な利益など、BRITA のことを高く評価しています。ここで、背景となる事情が極めて異なる顧客のケースを2件紹介しましょう。

### ラディソン・ホテル・グループ

ラディソン・ホテル・グループ (RHG) は世界最大ホテルチェーンの一翼を担うという存在だけでなく、サステナビリティ (持続可能性) の問題でこの分野の先駆者ともなっています。BRITA チームは RHG で責任あるビジネスと安全性・セキュリティを担当するグローバルシニアバイスプレジデントのインゲ・フィブレヒツ (Inge Huijbrechts) にインタビューしました:



インゲ・フィブレヒツ ラディソン・ホテル・グループの責任あるビジネスおよび安全性・セキュリティ担当グローバルバイスプレジデント

### あなたのホテルでウォーターサーバーはどこにありますか？

BRITA のウォーターサーバーは一般的に当ホテルで開催される会議やイベントで水を提供するために使用されています。それ以外にも、美味しい新鮮な水を提供できるよう、例えば朝食buffetでも使っています。



ラディソン・ホテル・グループは2020年までに会議やイベントのすべてで炭素ガス排出をゼロにして使い捨てペットボトルを全く使わないようにする目標を自ら設定しており、すでに欧州市場のほぼ全域で達成しています。

### Li さん:

Li さんは上海に住むお客様で BRITA 製品を十年以上に亘りこよなく愛用しています。彼女がポット型浄水器を初めて購入したのは BRITA の中国子会社が設立される5年ほど前の2003年のこと、その当時 BRITA 製品を扱っていた数少ない店舗の一つで買い求めたそうです。

「お茶を飲むのが大好きなのですが、浄水で特に気に入っているのはお茶の香りが十分に引き立つことです。BRITA の浄水器は実用的で効果があり、中国人世帯にも求めやすいので素晴らしいと思います」とリーさんは言う。このように主張する彼女は、すでに家族や友人の多くにも BRITA 製品を買うことを勧めて (製品の良さを) 実感させています。彼女は、BRITA がこれまで中国市場で発売した製品の多くを気に入っており、新製品が発売されたら、すぐにでも試してみたいと楽しみにしています。

### BRITA のウォーターサーバーはあなたのホテルのサステナビリティ戦略でどのような役割を果たしているのですか？

ラディソン・ホテル・グループでは5ヶ年計画を展開しており、その戦略は次のような指針に基づいています: “人のことを考え”、“コミュニティのことを考え”そして“地球のことを考える”。当ホテルが掲げる最重要目標の一つは、2020年までにすべての会議やイベントで炭素ガス排出を出さず使い捨てプラスチックを全く使わないようにすべきだということです。欧州市場のほとんどでは、すでにプラスチックゼロという目標を達成しています。ウォーターサーバーはこの目標を達成する上で大いに役立っていますが、その理由はペットボトルの水が生産され輸送される際に生み出される炭素ガス排出を削減する当ホテルの取り組みでその下支えとなっているからです。ウォーターサーバーを使うことで大量のプラスチックゴミを当ホテルで避けられることは言うまでもありません。

### そうした目標を達成する上でパートナーはどの程度重要ですか？

サステナビリティの目標を達成したいと考えるなら、パートナーシップと共同作業は絶対に欠かせません。ラディソン・ホテル・グループはインターナショナル・ツーリズム・パートナーシップといった業界団体にコミットメントを示しているパートナーですが、セクター横断的にサステナビリティの目標を追求しています。当然のことながら、BRITA のようなサプライヤーも重要なパートナーです。当ホテルがサプライヤーを選定する決め手は、単に常に最適なソリューションを見いだすよう努力しグローバルベースかほぼグローバルベースで事業を展開しているだけでなく、ラディソン・ホテル・グループと同じ理念を持っていることです。これは BRITA についても言えることです。

### 長期的目標を数多く掲げていますね。そうした方針を持続させるきっかけとなった成功事例を紹介していただけませんか？

2018年の春以降、当ホテルではプラスチック製ストローの使用を徐々に削減する取り組みに着手しています。これにより、現在関わっている南アジアとアフリカ諸国だけでも年間700万本のストロー使用が避けられるのです。当ホテルに宿泊するゲストの反応もさらに刺激となっています。お客様にはプラスチックゴミを出さないようにするためプラスチック製飲料ストローの使用を控えていると説明していますが、90パーセント強のゲストはストローなしに飲むことに納得し、残りの10パーセントは例えば紙製の代替ストローを使っています。

# それを発明したのは BRITA

**現在 BRITA が企業として成功しているその基礎は、ハインツ・ハンカマーが彼自身の発明2件によって築き上げました。そのうちの一つであるポット型浄水器は世界中に知られる存在となっております。今や数多くの家庭で欠かせないものとなっております。**



ハインツ・ハンカマーの発明家ワークショップに所蔵されている初の家庭用ポット型浄水器である浄水フィルター1

ハインツ・ハンカマーが彼自身初の発明となった「AquaDeMat」を思いついたのは、科学研究室の中で50年以上も前のことでした。彼は水を蒸発させることなくイオン交換樹脂で蒸留水を生み出す器具のアイデアに魅了されました。こうした技術に基づいて最初のフィルター試作品を自宅のガレージで生み出しましたが、これがドイツのガソリンスタンドで瞬く間にヒット商品となったのです。ガソリンスタンドのオーナーたちは AquaDeMat の取り扱いやすさに大いに感銘を受けました。その当時、カーバッテリーのメンテナンス用蒸留水を手に入れるのが困難だったからです。ハインツ・ハンカマーは製品を売れば売れば、この技術の可能性に気づきはじめました。

飲料水を最適化するため家庭でも使えるソリューションという素晴らしいアイデアは、1970年に思いつきました。その年に、彼は水道管とは独立して機能する最初の家庭用浄水器を発明しましたが、それに伴う販売アイデアも併せて生み出しました。それはすぐに製品の利点を示す BRITA ティーテストでした。BRITA の最適化された水で淹れた紅茶は、クリアで冷たくなっても風味が落ちることが全くなかったのです。

### 研究開発への重点対応

飲料水最適化の分野を代表する開発者、生産者でありそのプロバイダーでもある BRITA は、今なお研究開発に多大な時間と資金を投じています。その中心的な成功要因は、相変わらず同じものであり続けています。つまり、技術の継続的な最適化と発展を図り、お客様のニーズに確実に応えます。そのため、BRITA の開発担当者は新しいフィルター技術や素材、それらの理想的な使用法を日々研究しています。当社は、大学との交流や社内でのイノベーション管理からイノベーションや製品改良のアイデアを得ています。この取り組みでは、とりわけ顧客との対話が明らかに中心的なことです。「私たちは、自分たちのことをお客様の声だと思っています。開発担当者である私たちは市場ニーズを十分に理解できなければ、目標としている市場ニーズを上回るようなソリューションを生み出すことはできません」。こう説明するのは、フィルター・サーバーのグループ研究開発担当ディレクターであるトーマス・ナー

ゲルです。水処理・研究所のグループ研究開発担当ディレクターであるシモン・フロレン博士は、さらに次のように説明しています:「私たちは革新的な技術と製品コンセプトを絶えず研究しています。このようにして、顧客に合わせた製品ソリューションを開発しているのです」。

### イノベーションの基礎となる BRITA の創意工夫

典型的な開発プロジェクトではアイデアから完成品までほぼ2年から3年の期間が必要とされます。そうした中、アイデアは製品開発プロセスで設定されているいくつものハードルを克服しなければなりません。まさにハインツ・ハンカマーのように、BRITA の開発担当者は、ある意味で今もなお試行錯誤を続けながら技術を発明し、最適化する道筋を歩んでいるのです。こうした取り組みにより、当社は一般のすぐさま市場に投入可能なソリューションから独立し、とりわけ顧客の個別ニーズに合ったカスタム製品の開発ができるようになってきました。ハンカマーが50年以上も前に示したように、素晴らしいアイデアだけでは十分ということにはなりません。当社のミッションである「最高の飲料水体験をすべての人に」で表明されているように、本当の意味でのソリューションをもたらしてこそ良いアイデアはイノベーションとなるのです。この目的を達成するため、BRITA はその製品を多大に発展させてきました。現在は、高度に複雑なマシンとそれらを制御する要素も開発中です。また、MicroDisc (マイクロディスク) つまり活性炭ブロックのようなフィルター媒介素材は、この形態としては市場唯一のもので、「必要とする技術がまだ市場に存在しないのであれば、独自のソリューションを追求することになる」と、自らが率いるチームを完全に信頼している執行委員会担当メンバーのヒルマール・ヴァルデ博士は語っています。

### BRITA のイノベーションワークショップ

開発プロセスの全体は研究所とテクニカルセンターが、ともにその道筋をたどることになります。製品は約束された機能を果たすのかを確かめるため、徹底的にチェックされます。テクニカルセンターの主な任務は、はんだ付け、測定、ネジ止めです。ここではすべてがエレクトロニクスとソフトウェアということですが、そうした中で BRITA の VIVREAU サーバーはデジタル技術よりこれまで以上に「スマート」になっています。技術試験では、テクニカルセンターの一部として、BRITA 製品の品質が実際の条件下でテストされて保証されます。ここでは、例えば水圧における温度の変動や変化が検査されています。研究所は BRITA の結集された水の専門性が一つにバンドル化される場所で、とりわけ浄水過程の結果がチェックされています。市場に導入されるのは、BRITA の品質保証を満たす製品アイデアだけです。



2016年と2017年に市販されることになった製品イノベーション29件が、まさにその証拠です。ハインツ・ハンカマーが持っていたかつての発明精神は、今日でもなお生き続けているのです。





# 先駆者としての取り組み： BRITAにおけるカートリッジの リサイクル

## 数々の 受賞歴!

**技術とデザインで他社をリードするとい  
うBRITAが自社製品で掲げているこの抱  
負は業界アワードでたびたび認められて  
います。下記はそのいくつかの例です。**

### ドイツ・イノベーション・アワード 2018

BRITAのmypure pro (マイピュアプロ) 製品群はBRITAがドイツのタウンヌシュタインで開発した革新的な4段階のフィルター浄水機能を搭載した飲料水フィルターシステムで2018年にアジアで発売されました。このシステムは水に含まれたミネラルの大部分を残しながら、粒子やウイルス、バクテリア、その他の有害物質をろ過します。ドイツ・イノベーション・アワードではデザイン、ブランディング、イノベーション面で製品が評価されます。評価基準は単純明快であると同じくらい要求度が厳しくなっています。具体的に言うと、全体としてのコンセプトは機能的で持続可能でなければならず、それに加えてより良い未来に貢献するものでなければなりません。このコンペティションは世界有数のデザイン能力センターであるドイツデザイン評議会が最初に主催しました。ドイツ連邦議会により創設されたドイツ産業界から授与されるドイツ・イノベーション・アワードは、60年以上にわたりそれぞれのブランドを発展させる企業の下支えとなり経済的要因としてドイツのデザインを強化してきました。

### キッチン・イノベーション・アワード 2018

BRITAのウォーターバー (youre pro top および pro extra) はまだドイツでしか発売されていませんが、キッチン・イノベーション・アワード 2018を受賞しました。審査員団が受賞候補の製品を推薦しますが、実際に受賞製品を選ぶのは消費者です。いずれのタイプのウォーターバー製品もそれらのイノベーションや機能性、デザインで投票者を納得させました。グループ圧カシステム・エレクトロニクス研究開発部門でスマートタップシステムの専門職員を務めるアブラ・フィリーは、次のように語っています：「これらの2製品が受賞したのは、本当に嬉しい限りです。実際に当社製品が審査員団だけでなく消費者を納得させられたことは、私たちが開発分野で成し遂げてきた取り組みが広く認められた結果だと受け止めています」。

### レッド・ドット・デザイン賞 2017

ポット型浄水器と携帯型小型浄水器の普及製品分野でのイノベーションは数多くの市場で確立されていますが、これもまた称賛されました。BRITAのfill&enjoy Styleポット型浄水器とfill&go Vital ボトル型浄水器はそれらの製品デザインにより2017年に栄えあるレッド・ドット・デザイン賞を受賞しました。



数々の受賞に輝くデザイン。過去10年間で、世界的に認められた製品デザイン賞であるレッド・ドット・デザイン賞を受賞したBRITA製品は8機種に及んでいます。



BRITAには独自の再生工場があります：3基あるこれらの各円筒器は独立して稼働させることができ、サイクルごとに分離工場から出たおよそ1,000リットルの素材を処理することが可能です。

**ペットボトルの水に代わる環境に優しい代替品を提供する製品メーカーであるBRITAにとって、資源を責任ある形で利用するのは言うまでもないことです。「サステナビリティ」という言葉が人々の話題になるかなり前に、BRITAはすでにフィルターカートリッジのリサイクルプロセスを開発していました。このプロセスでカギとなる要素は、1992年以降稼働している2ヶ所の施設で成り立っています。**

**具体的には、分離工場と廃水処理を統合して行う再生工場です。**

BRITAの分離工場では、使用済みカートリッジが分解されてその中のイオン交換樹脂と活性炭のフィルター混合物が分離されます。その後、カートリッジ構成部品はすべて様々な方法で再利用されています。イオン交換樹脂はタウンヌシュタインに戻されてそこにある再生工場ではリサイクルされます。BRITA自身ではリサイクル不可

な製品部材はサプライヤーかその他のパートナーによってリサイクルされるため材料サイクルに戻されることになります。例えば、活性炭の場合は大元のサプライヤーに戻されて再活性化後に廃水処理での再利用が可能になります。プラスチック製カートリッジケースは粉碎されて粒状の素材になり、原材料としてプラスチック業界に売却されています。

イオン交換樹脂は、再生工場に到着するとその最大効率を回復するように処理されます。複数段階の処理プロセスを経ると、新品のイオン交換樹脂に求められる機能面、衛生面、法令面での全条件を再び満たすようになります。

再生されたイオン交換樹脂はその後フィルターコンテナで冷却・乾燥される前にボイラーで殺菌されます。ボイラーを稼働させることにおよそ1,000リットルの完全に再生された素材が殺菌され、新カートリッジの添加物として使用されます。

リサイクル工場のおかげでBRITAの生産サイクルがすでにどれほど持続可能な状況にあるのかは数字が示しています。毎年、400万個以上の製品から2,000m<sup>3</sup>を超えるイオン交換樹脂と活性炭がタウンヌシュタイン・ヴェーヘンで再生利用

されています。新規の生産と比べて、イオン交換樹脂のリサイクルで使われる原材料は少ないため化石燃料由来の原材料も少なくなります。使用済みのフィルターカートリッジを返却することで、BRITAの顧客は環境と気候の保護に常に実用的な貢献を果たしています。



消費者が世界中から返却してきた使用済みのMAXTRA (マクストラ) カートリッジは、タウンヌシュタイン近くのヴェーヘンにある分離工場では回収されています。

スーパーマーケットの回収ボックスや郵送による無料返却、業務分野では顧客のため交換を実施するサービス技術者を通してなど、カートリッジは数々の方法で欧州各国から分離工場へと戻ってきます。さらに、法規制と顧客の嗜好も考慮されなければならず、例えば輸送ルートの長さに関しては生態系面での合理性評価が必須となります。顧客の多くにとって、カートリッジのリサイクルは重要な一面であるためBRITAが望ましいブランド認知を高める機会となっています。例えば、BRITAフランスでは現地スーパーマーケットでのカートリッジ回収ポイントを2018年末までに1,200ヶ所以上に倍増させるよう取り組んでいます。



BRITAの社内研究所でサンプルを抽出するチームリーダーのトルシュテン・ドムニグ。ここでは各個別のバッチで厳しい品質試験を実施しています。彼は3交代シフトで週5日再生工場のスムーズな稼働を確保している従業員7人のうちの1人です。





# 製品に ついての 責任

## 次のステップ

- **製品開発：製品のデザインと開発におけるサステナビリティ（持続可能性）の考慮**
- **オペレーショナル・エクセレンス：店舗フロア管理の標準化とさらなる開発**
- **認証：中国の新生産工場に関わる当初認証の成功（ISO 9001、ISO 14001 および ISO 45001）**
- **サプライチェーン：企業責任問題をサプライヤー管理に統合するその改善**

## 最優先事項：品質

当社が世界中で認知されているのは BRITA 製品の品質によることですが、それは偶然に起こっていることではありません。包括的な品質システムによって原材料から最終製品に至るまで監視プロセスが統制されているからなのです。一貫した高品質と安全性は原材料を選定する際の最も重要な基準です。最終的に、原材料は当社の高品質製品を支える基礎となります。BRITA は基本素材であるイオン交換樹脂と活性炭に関して、サプライヤーとの間で詳細な契約を取り交わしています。各サプライヤーは、それぞれの製品が原材料に関する BRITA の厳格な仕様と該当する法的要件をともに満たしていることを書面で保証しています。

搬入されてくる原材料は搬入物試験所の検査を経ることになり、とりわけ無作為の微生物試験が課せられます。社内再生工場のカートリッジリサイクルプロセスの一部として回収されるイオン交換樹脂でも包括的試験が実施されています。原材料はすべてスタッフがその完璧な品質を確認した上で初めて処理されます。検査で阻まれるか承認されなかった製品はラベル表示され、欠陥がある場合はサプライヤーからリサイクル施設の担当従業員に戻されます。特に衛生面での規制を中心とした高品質基準は生産でも適用され、そうした要件の遵守は詳細なプロセス文書と適切なチェックポイントでの検査で確保されています。また、BRITA 製品が小売業者に供給される際には、BRITA がトレーサビリティを保証しています。

高レベルであるとともに一部は自らが課した品質の要求度を一貫して保証するため、最終製品は継続した見直しが行われています。さらなる試験と製品登録検査に関して、BRITA はドイツの TÜV SÜD（テュフズード）などそれぞれの国で名が通った評判の高い様々な著名の独立した機関や研究所と協同しています。当該機関の認証は製品の品質と安全性を裏付けるものとなっています。

包括的な品質保証プログラムは継続して向上と改善が行われています。中国の生産現場における ISO 9001 に従った品質管理システムの導入は、BRITA がどのようにして厳格な仕様をあらゆる拠点で確実に実施しているかというその典型例です。当社がその製品に関して世界中で取得している認証は BRITA に対する消費者の信頼を高めており、品質へのコミットメントが実現されているさらなる証拠にもなっています。

### 製品認証の抜粋<sup>1</sup> (2017年12月時点)

認証	
<b>TÜV Octagon (テュフオクタゴン)</b>	TÜV Süd(テュフズード) – 食品安全性の認証マーク(ドイツ)
<b>KTW</b>	飲料水と接触するプラスチック製品 (ドイツ)
<b>ACS</b>	衛生遵守認証 (フランス)
<b>TIFQ</b>	食品の技術およびプロセス衛生品質機関 (イタリア)
<b>WQA</b>	水質協会 (米国)
<b>NSF</b>	米国衛生基金 (米国)
<b>WRAS</b>	水質規制諮問会議 (英国)
<b>KC</b>	韓国製品安全性要件 (韓国)
<b>WaterMark (ウォーターマーク)</b>	WaterMark (ウォーターマーク) 認証制度 (オーストラリア、ニュージーランド)
<b>HSO/NHFPC</b>	浄水器衛生証明 (中国)
<b>PZH</b>	Narodowy Instytut Zdrowia Publicznego (ポーランド)

<sup>1</sup> 全認証がすべての製品に該当するわけではありません。

### 透明性がある消費者情報

BRITA が独自製品で定めている高レベルの基準は、消費者との間の情報提供や意思疎通でも反映されています。消費者は製品とそれらの使用に関する質問に対して、理解しやすい情報や回答を受けています。消費者は BRITA に連絡して、ウェブサイトのサービスエリアや Facebook、Instagram、Linkedin、YouTube のソーシャルメディアページを介して、さらに消費者ホットラインでも質問への信頼できる回答を得ることができます。

## 集約された水の専門性

BRITA の浄水フィルターシステムといった最高品質の製品を開発して生産するには、資源である水についてこの上なく理解することが欠かせません。飲料水の最適化とパーソナル化で世界的に認められたエキスパート企業である BRITA には、この分野での長年にわたる経験と豊富な知見があります。そのため、当社は 12 人の従業員を擁する水道施設に似た近代的研究所を稼働させています。この化学研究所では、特にどのような成分（鉄、銅、塩素など）が BRITA 製フィルターでろ過されて除去されるのかを分析しています。フィルターの耐用期間もこの分析に基づいて決定されています。それに加えて、それぞれの市場向けのフィルター混合体を最適な構成とするため世界各地の飲料水も検査されています。それとは対照的に、微生物学研究所では食品産業と同じ衛生基準に従ってフィルターと生産環境を検査しています。ここでは、例えば衛生上の理由から適切なカートリッジ交換頻度が吟味されています。さらに、微生物学研究所は原材料がすべて厳格な衛生要件を満たすことを確かめています。専門性の個別分野としての検査技術は、現在 8 人のスタッフ態勢で取り組まれています。ここでは、材料、構成成分、最終製品がとりわけ安定性や漏れ、連続使用中の機能性、洗浄剤との接触に関して検査されています。こうした対応により、製品は必ず浄化特性やメカニカル強度、耐久性に関する高水準を満たすようになっています。

### 社内官能分析研究所

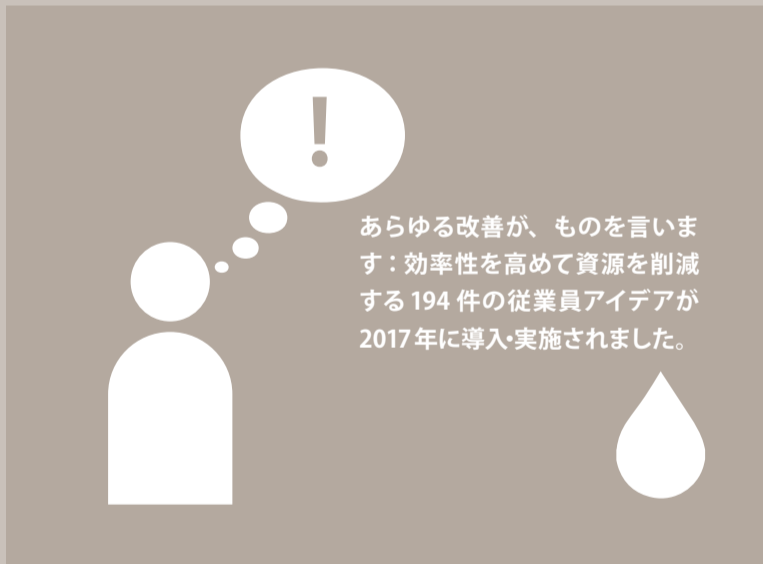
BRITA には、訓練を受けた水ソムリエのリーダーシップのもとで 2015 年から運用されている独自の官能分析研究所もあります。この研究所では、水やコーヒー、紅茶の味に関する研究が訓練を受けた複数の検査パネルによる味の分析とともに実施されています。12 人の検査担当者が働くスペースがある特別設備が据えられたテイasting室では、毎年コップ 15,000 杯もの水や他の水ベース飲料がテイastingされています。テイastingの結果は製品の開発や改善に活かされて、BRITA が飲料水最適化分野で有する専門性を持続して強化する上で役立っています。

BRITA は最新の科学動向に遅れを取らないようドイツと欧州で知覚科学協会に加盟しています。当社の独自研究活動でも知見の向上が確保されています。例えば、2018 年には、社内の検査結果や目標とする基礎・科学研究に基づいて、浄水、水道水、ミネラルウォーターで同じように利用可能な初の水センサーホイールが開発されました。このホイールは味の感覚印象や食感、匂いを体系的に言い表す上で役立っています。

知覚科学は品質管理でも重要な役割を果たしています。特別な訓練を受けた従業員が納入される材料の官能評価を実施して、BRITA の品質基準が味に関して満たされていることを確かめています。こうした搬入物検査を同一の品質基準で現地対応により実施できるよう、独立した搬入物管理パネルが 2017 年 9 月以降知覚担当部門のガイダンスに基づきドイツ、英国、中国の生産現場で設立されています。

## BEST：オペレーショナル・エクセレンス

状況が改善される可能性はいつでもあります。BRITA がオペレーショナル・エクセレンスというテーマに真剣に取り組むのもそれが理由です。2009 年には、BRITA エクセレンスシステムである BEST が生産と物流で導入されました。それ以降、あらゆる生産分野の改善チームは無駄を省き、付加価値を高めるよう取り組んでいます。設備技術を担当するプラントエンジニアリングの同僚たちとともに、彼らは工程の効率化、エルゴノミクス化、安全化を高めるデバイスを開発しています。



2017 年には、人、地球、利益の分野で 214 件の新規アイデアがチーム内で生み出されました。そのうち、194 件のアイデアは昨年導入・実施の日の目を見ており、今では効率性の向上と資源削減に貢献するものとなっています。BEST は当社が持続可能な改善を達成する上で役立つだけでなく、従業員の満足度にも多大な貢献を果たしています。この BEST 制度により、従業員は改善プロセスに初めから関与し、会社と従業員の要件を同じように満たす方法でデバイスを開発しています。



# 製品開発

BRITA が飲料水の最適化とパーソナル化の分野を代表するエキスパート企業としての優位性を維持するため、当社は毎年売上高の5パーセントを研究開発に投資しています。100人以上の従業員が新製品や水浄化技術、想定される新用途、新素材の利用可能性に継続して取り組んでいます。300件以上の国際的に認められた特許が、イノベーションにおける当社の優位性を裏付けています。

新製品を設計する際には、顧客ニーズと最新傾向を把握することがこの上なく重要になります。2017年に大幅に変更された製品開発プロセスは、そうしたイノベーションプロジェクトの明確なフレームワークとなっており、市場とユーザーのニーズに重点が置かれています。BRITAは今後も品質面とエコロジー面で意味ある製品を開発していきたいと考えています。それと同時に、サステナビリティも消費者と顧客にとってますます重要なテーマになっています。自社製品が環境に与える影響にBRITAが思いを寄せるのもそれが理由です。新製品開発プロセスでは、特定スペシャリスト部門的を絞って関与することで、企業責任が初期段階で確実に考慮されるようになります。このようにして、新製品のサステナビリティ要件が定められて残りの開発プロセス全体を通して考慮されるのです。

## 管理システム

BRITAはこれまでに品質や環境、エネルギー、職場安全管理に関する様々な管理システムを導入してきました。それらは、プロセスやサービス、生産を効率的に組織化して改善を継続する上で役立っています。これは、当社が数多くの顧客やビジネスパートナーの要求に对应しているということでもあります。品質や環境保護とともに、そうした管理システムでは認証管理システムにより、エネルギーのさらに効率的な利用や従業員の福利厚生への関心にますます価値が見いだされています。

マトリックス認証では、タウヌシュタイン(ドイツ)、ビスター(英国)、ノイドルフ(スイス)の生産拠点が品質管理標準ISO 9001による認証を受けています。2011年以降、これらの生産現場は環境管理標準のISO 14001に加えて労働安全衛生管理標準であるOHSAS 18001の要件も満たしています。さらに、タウヌシュタインとビスターの拠点にはISO 50001に従ったエネルギー管理システムも備わっています。ISO 9001とISO 14001の最新版への変更は、2017年の再認証監査により、これら3拠点のすべてで滞りなく完了しました。

### 認証の概要

(2017年12月時点) :

認証	DE	GB	CH	中国
ISO 9001	●	●	●	(●)
ISO 14001	●	●	●	(●)
ISO 50001	●	●		
OHSAS 18001	●	●	●	(●)
BRC	●	●	●	

(●) 2018年予定。OHSAS 18001に代わり、新規のISO 45001標準の認証を受ける予定。

2018年には、中国の新生産拠点がISO 9001、ISO 14001、ISO 45001(以前のOHSAS 18001)の各認証を確実に受けられるように対処する計画が立てられています。つまり、従業員や顧客、パートナーは、BRITAのことを効率的に、持続可能な形で、一貫して高品質の基準で機能する会社として信頼できることを意味します。さらに、他の拠点でも今後管理システムを導入すべきか計画が検討されています。

2012年以降は、タウヌシュタイン(ドイツ)に加えて、今ではビスター(英国)、ノイドルフ(スイス)の生産現場もすべてBRC(英国小売協会)の消費財グローバルスタンダードによる認証を受けています。この標準規格では、安全で法令を遵守した最高品質の製品を製造する基準が特定されており、生産プロセスとそれらの管理に重点が置かれています。

## サプライチェーンに関する責任

生産会社であるBRITAは、重要な原材料やその他の材料、それに加えてテクニカル浄水装置や電子部品といった構成部品を世界中のサプライヤーネットワークから入手しています。当社は、そのサプライヤーと協力的で長年にわたることが多いビジネス関係を築いています。生産に関連した原材料や重要な製品構成材のサプライヤーは、そのほとんどが欧州とアジアを拠点としています。製品の品質を確保するため、サプライヤーは特定の基準に従い選定されています。ISO 9001による最新の品質管理要件やBRITA特有の品質・プロセス要件の他にも、環境保護や労働安全、衛生、社会的責任、コンプライアンスの分野でも要件があります。一定の購入量を超える生産関連素材のサプライヤーには、当該分野におけるそれらの活動の情報を定期的に提供することが義務付けられています。選抜されたサプライヤーは、さらに法令遵守をチェックするため資格があるBRITA従業員による現場監査を受けています。必要な場合は、是正措置計画によりどのような改善がなされるべきかが決定されます。2017年にはサプライヤー30社の監査が実施され、2016年は11社でした。

BRITAは、その事業活動がサプライチェーンに及ぼす影響の責任を認めています。また、あらゆる形態の強制労働や拘束労働、児童労働、差別を固く拒絶し、国際的に認められた人権を擁護する姿勢を打ち出しています。サプライヤー自身は、少なくとも法定最低賃金は必ず支払い、労働者のため適切な生活水準を実現することにコミットしています。サプライヤーは、労働時間と有給休暇に関する国内の規則や協定を遵守しなければなりません。そうした枠組みで提起され行動原則の骨格となるBRITAの行動規範と倫理規範は、BRITAの企業文化とBRITAのセルフイメージの根本的な要素となっています。BRITAとの長期的な協同が可能となり、そのような関係になるサプライヤーは、当該規則を遵守することを承諾したところだけです。BRITAやサプライヤーで行動規範の違反に気づくか見いだした従業員は、匿名により結果を恐れることなくそうした事実を報告することができます。

## BRITA 倫理規範の原則

- ・ いかなる強制労働、拘束労働、児童労働も禁止
- ・ 全社員を尊敬・尊重して平等に処遇
- ・ 結社の自由
- ・ 妥当な生活水準をもたらす報酬
- ・ 週間最長労働時間に関する規則の遵守
- ・ 労働安全衛生の保証
- ・ ニーズ指向および能力特有の資格適性
- ・ 環境保護



BRITAの国際的な成長と、特に水道管直結型サーバー分野を中心とした製品群の継続した発展も、サプライチェーンがさらに複雑で多様な姿になることを示しています。それと同時に、顧客と立法者は、直接サプライヤーには関係ないことが多々あるものの、上流生産プロセスや原材料の採取に関わるテーマにますます注目しています。いずれにせよ、こうした状況はBRITAにとって評判と成功という意味でのリスクになりかねません。

デューデリジェンスの自社義務を果たすため、2017年に、当社はサプライヤー管理を社会・環境問題でより密接に重要視するようになりました。顧客からBRITAとそのサプライヤーに課せられた詳細要件の社内見直しに加えて予想される法令面での進展動向に従い、2018年にサプライヤーの自己評価質問票が改定され、関連するプロセスも改めて草案し直されました。次のステップは、どのようにすれば社会・環境問題をサプライヤーの選定と評価に最善の形で統合できるのかを検討することです。その理由は、BRITAにとって企業責任が全バリューチェーンでその責任を負い受け入れるという意味だからです。

目標	達成済み	状況
製品開発プロセスのさらなる最適化	● 2017年の製品開発プロセス(PDP)見直し ● サステナビリティ問題の早期考慮が確保される	
成功をもたらすアワード受賞対象となる製品デザインの継続	● BRITA Yourceウォーターバーがキッチン・イノベーション・アワード2018を受賞 ● mypure pro フィルター製品群がドイツ・イノベーション・アワード2018を受賞 ● 2017年:ポット型浄水器がレッド・ドット・デザイン賞を複数受賞	
オペレーショナル・エクセレンス・システム(BEST)の拡大	● 全関連生産分野でBESTチームを導入(ドイツ) ● 214件の改善アイデアが生み出される(そのうち194件が導入・実施) ● 報告システムの改定と生産数値の改善	
その他の生産現場における管理システムの導入・実施	● 2018年末までに中国のBRITA生産拠点で認証を取得する意向 ● イタリア生産拠点の認証は延期(2018年に移転)	
サプライヤー関係管理ツールの導入	● ツール導入は実施されず	

●●● 達成された目標

●●● 一部達成された目標

○○○すでに関連性がない/達成されていない目標



02 #

BRITAの生産ラインはすでに熟知しています：  
パトリック・ボラー

# 私たちは BRITA

持続可能なビジネスの発展は、全員が一丸となってこそうまくいくものです。つまり、それぞれのアイデアやコミットメントをもってBRITAを日々形作る全世界の全従業員およそ1,800人が力を合わせて初めて可能となるのです。従業員には、組織とBRITAの製品やプロセスを一体となって推進することが奨励されています。従業員との特別な関係を維持している同族経営事業（ファミリービジネス）の理念は、そうした態勢の基礎を築きます。共通する価値観や明確な目標だけでなく、具体的に手を差し伸べて援助することが方向性を示すこととなり、サポートとなります。このようにして、飲料水の最適化という極めて躍動的な市場環境で継続的に発生する困難な課題を克服することができるのです。



BRITAでは、およそ50ヶ国の様々な国籍の人が働いています。当社は、国際的協力を促すため語学コースと異文化研修セミナーを提供しています。







BRITAが進出している数多くの新規市場は、未だかつてない大きな課題を突きつけており、それは製品のみならず従業員にとっても同じことです。プロジェクト担当グループはますます国際的で躍動的になり、柔軟性と異文化へのセンシビリティが求められています。これまでで最も複雑な最新製品開発プロジェクトである「mypure pro (マイピュアプロ)」は、そうした数多くある事例の一つです。

mypure proフィルター製品群は、「浄水装置」を搭載した初のBRITA水フィルターシステムです。強力な超浄水モジュールが水のバクテリアやウイルスをろ過して除去します。「これはBRITAにとって全く新しい技術だ」と説明するのは、水処理メカニカル担当マネージャーのティム・ヴルフです。「バクテリアのろ過は一部の企業でもありませんが、ウイルスまでろ過して除去するソリューションを提供しようとするところは多くありませんでした」

NSF P231 認証



協力関係の成功は固く結びついたグループへと発展する上で役立ちました：香港とドイツ本社の同僚たち



BRITA本社の中心チームは、新フィルター技術を誇りに思っています。

### 技術革新

わずか3年でBRITAはこの新技術を開発しましたが、そうした中で国際プロジェクトチームには様々な形で難しい課題が呈されました。具体的には、新しい研究所試験方法が見いだされ、13件の異なる新製品証明が発行され、数多くの新

たな法的要件についての理解が求められてソリューション指向の方法で実施されなければなりません。技術革新の他にも、加工・処理された予備部品の数量も課題です。およそ50種類の異なる射出成形ツールが、mypureシリーズでは使われています。それとは対照的に、fill&enjoy funのようなポット型浄水器で使われているのは1種類だけです。「新システムに伴う課題は、何と言っても各種の製品構成材を統一したハウジングに収める最も便宜的な方法を探ることだった」と語るのは、加圧フィルター製品担当シニアマネージャーのヨッヒェン・ツェラーです。彼自身がチームとともに生み出したのはプラスチック製の構成材でした。mypure proはBRITA China Manufacturingが中国の新生産工場で生産しています。広範に及ぶサプライヤーネットワークがそれに伴って存在するのここです。

### 国際的協力の成功

このプロジェクトがここまで成功したのも、ひとえにチーム全体がそうしたソリューション指向の統一したやり方で協力したからです。こう説明するのは、中国でジェネラルマネージャーを務めるシェリー・サンです。「とりわけ国際レベルでのそうした対応は顕著でした」この点はプロジェクトリーダーのアンドレ・フォンベルクも認めていま

す：「集中的な異文化交流は、多くのチームメンバーにとって新たな経験でした。また多数の従業員が個人レベルでも成長したのは事実ですが、異文化交流がその貢献要因であるのは明らかです」中心チームは、本社の同僚12人という構成でした。

このプロジェクト中、彼らは香港や台湾、中国のBRITA従業員との密接なやり取りを推進してアジアでの生産開始が確実に成功するよう対処しました。プロジェクト全体の期間中に、チーム内の異動はほとんどありませんでした。「これは同僚たちが新たな課題を受け入れた表れだ」と、フォンベルクは説明しています。後方支援はマークス・ハンカマーCEOからもたらされましたが、彼は様々なプロジェクト段階でも持続して独自の決定を下すようチームを奨励したのです。

## アジア：第2の拠点

mypure pro (マイピュアプロ) はアジアのBRITA市場がどのように革新的アイデアを推進しているのか、また当社がどのように現地レベルで同僚たちと協力して特定の市場ニーズを満たすソリューションを開発しているのかを示す好例です。



躍動する市場でニーズにマッチしたソリューションを迅速かつ効率的に提供したいのなら、それに必要なのは適切な手段とプロセスです。そうした手段とプロセスは、従業員が自らに課されたさらなる要求を満たす上で役立ちます。この好例が製品開発プロセス、つまり2017年に改定されたPDPです。

### 躍動的な製品開発

革新的ソリューションを日々追い求める姿勢は、BRITAのDNAに深く根ざしています。このような自己認識は、当社が顧客と消費者のニーズに合わせたソリューションを市場が成熟するレベルにまで高める場合に明らかになります。スペシャリスト部門の多くはお互いに共同して取り組むことが求められるため、その底流を成す製品開発プロセス (PDP) は絶えず合理化されています。2017年に、プログラム・プロジェクト管理グループ担当ディレクターのマーカス・ホルンは、彼のチームとともに他部門と密接に協力してこのプロセスを意義ある形で変更しました。その成果は、厳格な一連の規則とみなされるのではなく、市場とユーザーのニーズをさらに目標として定める明確なフレームワークです。つまり、このプロセスはあらゆるプロジェクトを最善の形でサポートすることが可能なため、複雑さや尽力にかかわらず、関与するプロジェクトチームにとっても下支えとなるのです。



BRITAの製品開発プロセスを入念に監視しています：グループのプログラム・プロジェクト管理チーム

もう一つの重要な要素は、プロジェクト終了後1年で新たに導入された「パフォーマンスレビュー (業績・成果見直し)」です。このレビューでは、プロジェクト完了後に得られた洞察が記録されるので、その後のイノベーションプロジェクトに取り入れることが可能となります。







# 人材に関する責任

## 次のステップ

- **研修：内容を追加し経営管理能力開発に重点を置いたBRITAアカデミーの拡大**
- **組織発展：社内での全体的協力に関するBRITA特有コンセプトの導入**
- **職場安全：BRITAにおける職場安全衛生の標準化と国際化の継続**

## パートナーシップ成功の基礎

BRITA では、価値観がそのアイデンティティーです。価値観は、ビジネス戦略と同じくらい多分に、当社の成功に貢献しているのです。そうした価値観（自由、個人的責任、信頼、チームスピリット、尊重、オープンさ）は、BRITA のセルフイメージで正式に定められています。そのセルフイメージでは、従業員間に加えて従業員と管理者の間で協力の基礎となる基本的原則が定められています。

## 成功要因：PEOPLE

BRITA の成功は、革新的で高品質の製品、当社を実質的に形作っている、やる気があり訓練を十分に受けた従業員、それに彼らの知見とアイデアによる会社としての発展に基づいています。そのため当社は、生産的でやる気が出る職場環境を生み出すよう、継続して取り組んでいます。とりわけ国際レベルでの迅速で堅調な成長は、人事管理の新たな課題を数多くもたらしていますが、それは従業員と管理者が能力を開発し、成長する機会でもあるのです。

## 人材管理

BRITA における人材管理には、体系的な雇用、能力開発、職場定着、当社における従業員の展開・配置などがあります。人材管理をサポートするため、従業員の業績と能力開発プロセスが 2016 年から BRITA の全拠点で使用されています。このプロセスでは、パフォーマンスレビューや目標合意といった以前用いられていた要素が統合・簡素化されているため、BRITA 社内における従業員評価と能力開発の透明性が全体として高まっています。

BRITA は、従業員の職務・専門能力開発のために一連の様々な研修コースを提供しています。Office と語学のコースは、経営管理セミナーやスペシャリスト研修と全く同様に、その範囲の一部です。将来的に、職務・専門能力開発機会はすべて、BRITA アカデミーに統合されることとなります。BRITA セールスアカデミーは、その最初の取り組みとして 2017 年に導入・実施されました。各種のモジュールで、世界中の従業員は e ラーニングを利用して販売に特化した研修で学ぶ恩恵を受け、BRITA 製品に関する新たな知識を得ることができます。

BRITA は、自社スタッフの枠組みで新たな管理者をサポートして育成する BOLD プログラムを 2017 年に導入しました。BOLD とは、BRITA リーダーシップ能力開発機会のことです。この 3 ヶ年プログラムでは、潜在能力が極めて高い従業員が管理職となるための準備トレーニングを受けます。このカリキュラムには、チームがともに協力して与えられた問題を解決しなければならないワークショップやプロジェクト任務といったモジュール方式の個人・チームベース評価があります。それに加えて、コンフリクト管理や戦略策定、変更管理といった能力・技能も強化されます。もう一つの重要な要素は、メンタリング（指導）です。この場合、経験豊富な BRITA の管理者が BOLD 候補者の指導役を担い彼ら自身の経験を伝えてジュニアマネージャーのキャリア開発をサポートします。BOLD 候補者は、様々な基準に従い執行役員会から指名されます。

## 国際交流

BRITA は国際的に発展しているため、本社従業員はますます他の国での任務に就くようになり、海外子会社の同僚を組織構造の構築や設備の設立でサポートしています。他にも、海外子会社からタウヌスシュタイン本社に異動する従業員もいます。職務任命と短期従業員の一時的な配置転換が必ずうまくいくよう、また従業員が海外滞在中に十分なケア措置を受けられるよう確実に対処するため、全世界で効力を発する国際任命方針とそれに伴うプロセスが 2018 年初めに策定されました。このプロセスでは、従業員とその上司の権利や責任、任務が定められ、世界中の海外職務任命契約が標準化されています。人事と税務専門家で構成された社内の部門横断チームがこのプロセスをサポートして税務と雇用法に関連した問題が考慮され、適正に処理されることを保証しています。このようにして、従業員の最適なサポートが保証されているのです。

## 豊富な給付手当

BRITA はその従業員に平均以上のコミットメントを期待しており、彼らには顧客や同僚、社会、環境に対して責任ある行動をとるよう求めています。その見返りとして、従業員には生産的に働くためそれぞれの責務を果たす上で求められる自由度が与えられています。適性資格がある人材を BRITA に引き寄せるため、当社はあらゆる国で公正かつ競争力がある給与を提供しています。勤務評価は職務特有の要件に基づき、多様性要因とは切り離して実施されています。

金銭的報酬に加え、BRITA は素晴らしい職場環境、協力精神、申し分ない能力開発の展望、それに国と現地の状況に応じて異なりますが平均を上回ることが多々ある従業員手当も提供しています。フレキシブルな労働時間、在宅勤務の選択肢、無料の飲料、ヘルスケアサービス、無料駐車場はすべて BRITA 子会社の多くでは当然の処遇です。各子会社には、従業員にモチベーションを与え、その評価を示す独自の方法があります。

## 世界の付加手当<sup>1</sup>

- ・ 企業年金制度
- ・ 任意健康保険
- ・ 就業期間生涯アカウント/サバティカル休暇
- ・ キャリア統合学習を受けるオプション
- ・ 無料ヘルスケア
- ・ 公共交通チケット補助金
- ・ 助成付き食堂または食事補助
- ・ スポーツ・フィットネス活動手当
- ・ クリスマスまたは休暇ボーナス
- ・ 誕生日・記念日の贈物



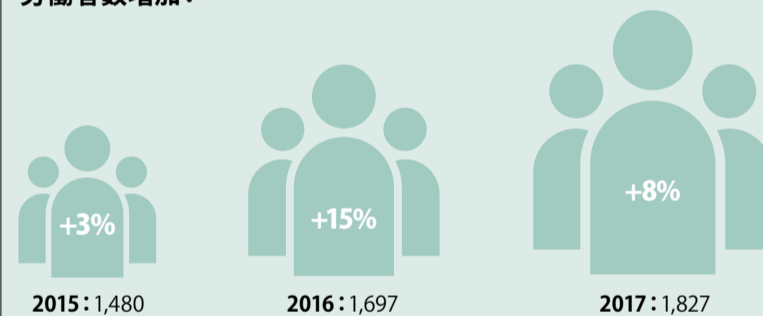
## パートナーシップベースの人事方針

タウヌスシュタインにある本社では、包括的従業員手当の多くが、経営陣、人事部門、そして 1999 年から従業員利益を主唱している労使協議会間の、密接で建設的な協力の成果としてもたらされています。そうした協力は、全当事者が建設的な話し合いと目標指向のソリューションに関心を寄せる、相手を尊重した行動と公正な相互関係によって常に特徴付けられています。ここ数年で従業員数が増大し、労使協議会の責任に課せられる要求も高まっているため、2018 年秋から、労使協議会議長だけでなく副議長も、初めてそれぞれの業務活動を免除されて専従となります。

## 従業員指標

ここ数年の経済成長に伴い、従業員数も着実に増えています。2017 年末時点で、BRITA では 1,827 人が雇用されています。これは、2016 年比でおおよそ 8 パーセントの人員増になります。別途示唆されている場合を除き、以下の指標は BRITA グループ全体を指すものです。

### 労働者数増加:<sup>2</sup>



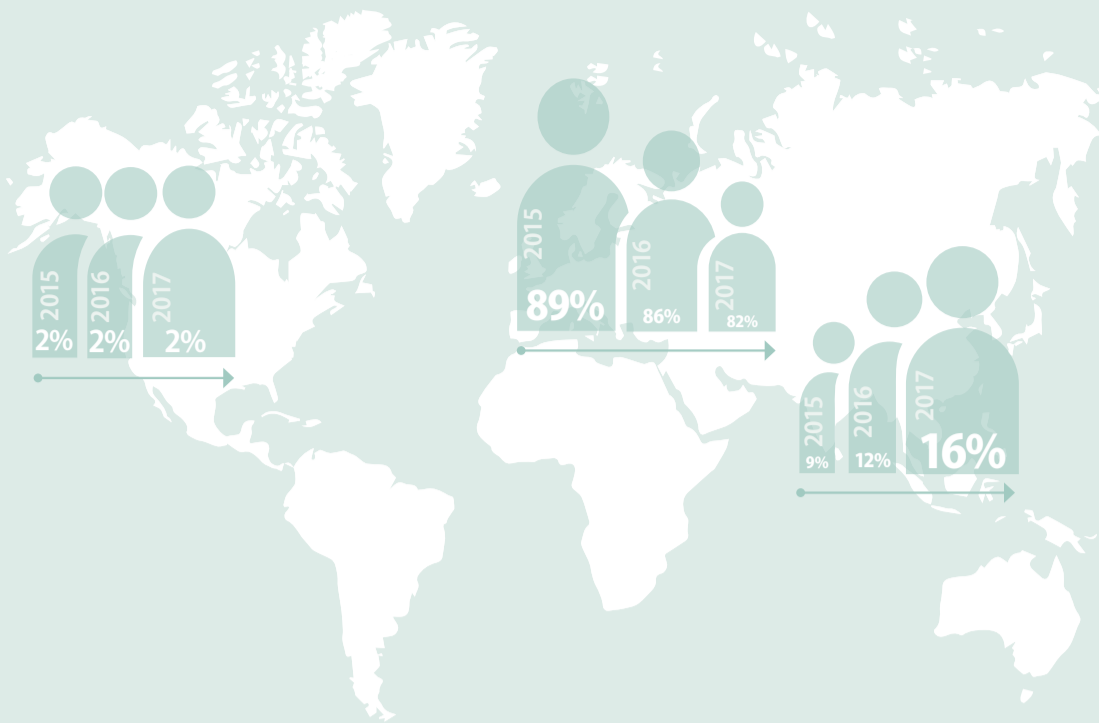
### 多様性のある労働者層:

2017 年は、欧州の従業員が占める割合が 82 パーセントでした。その大半は、タウヌスシュタイン（ドイツ）やピスター（英国）、ノイドルフ（スイス）の生産拠点に加えて、もちろん、中心的役割の多くが所在するタウヌスシュタイン本社で雇用されています。BRITA はアジア地域を成長市場と位置付けており、アジア市場はすでに当社の成功に重要な貢献を果たしています。当社がアジア諸国、とりわけ中国で組織体系を継続して構築する中、現地での専門性も強化され労働者数も増えています。それに呼応する形で、アジアにおける従業員の割合も 2015 年から 2017 年の期間に 9 パーセントから 16 パーセントへ高まっています。北米の BRITA は、小規模の販売流通会社により現地対応しています。

全体として見れば 2017 年には、46 ヶ国の異なる国籍を有する社員が BRITA で働いていたこととなります。このような文化の多様性が日々の相互関係を形作り、BRITA が確実に前進し続ける上で別の視点と貴重なアイデアから恩恵を受ける新たな機会をもたらしているのです。それと同時に、管理者と従業員に課される要求も変わりつつあります。異文化協力は、ますます日々の業務の一部となっています。BRITA は、従業員がそうした課題を克服するため語学コースや異文化研修コースでサポートしています。

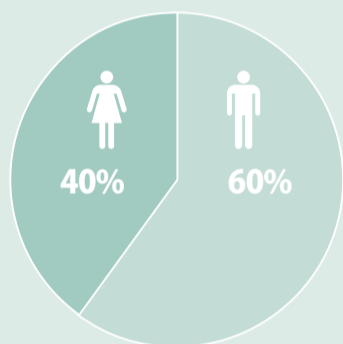


世界の従業員分布<sup>(2, 3)</sup>



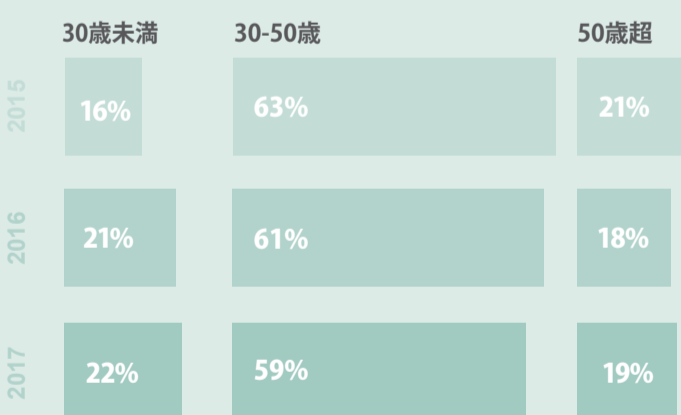
2017年に、BRITA従業員の12パーセントはパートタイムで就労していました。この割合は、2015年以降変わらず続いています。BRITAは、従業員がそれぞれの労働生活を柔軟に個々のニーズに応じて設定できるようパートタイム雇用モデルを提供しています。他の企業と同様に、BRITAでも一定の状況進展に迅速に対応することが必須です。それでも、従業員の82パーセントは正規雇用の契約で働いています。2017年に有期労働契約の割合は、前年比6パーセント増の18パーセントとなりました。こうした状況は、企業内で数年雇用された後で初めて正規契約が通例となる、成長市場での人員増で一部説明がつかず。それでもBRITAの目標は、いつでも従業員に長期的なキャリア展望を提供することです。

性別で見た従業員分布：



BRITA従業員のおよそ40パーセントは、女性です。この割合は過去数年一定して変わらず、製造業の分野ですますます技術主導が高まる企業にとっては極めて高いレベルです。従業員の平均年齢はほぼ40歳で、これは従業員の年齢構造で実証される傾向があります。2015年から2017年の期間中、BRITAにおける30歳未満従業員の割合は16パーセントから22パーセントへ高まりました。それでも、長年勤めてきた年齢の高い従業員の経験も高く評価されています。例えば、BOLDプログラムの枠組みで実施されるメンタリングにより、社内での知識移転が確保され、若年従業員が経験豊富な従業員の知見で確実に恩恵を得ることができます。

従業員の年齢構造：



安全衛生

BRITAは従業員の安全衛生に気を配り、病気やケガを防いで常に職場の安全を改善するよう鋭意努力しています。職場の安全衛生管理における法的義務やその他の要件の遵守はその基礎であり、可能な場合、それらの基準を上回る事が求められています。職務安全分析の手法により、従業員の保護を保障するため、職場と新規・修正プロセスは、リスクを見いだす目的で監視されています。また、リスクが識別されると適切な措置が設計に加えられ、新規の生産ラインや機器の法律に従った運用でも対処されます。さら

に、定期的な職務エリアの検査も実施されています。安全衛生・環境部門が結果を評価し、必要な場合は措置を講じて、法律面での規定とともに助言を呈しています。全従業員は、安全衛生問題に関する定期的な研修を受けています。拠点によっては、そのためオンラインでの研修やセミナーが提供されています。一方、従業員には職場の安全規則を常に遵守し、不備があれば上司に伝えて改善の提案を行うことが求められています。

職場の安全は、とりわけ製造業界にとって重要な問題です。そのため、タウヌシュタイン(ドイツ)、ピスター(英国)、ノイドルフ(スイス)の各生産拠点は職場の安全衛生に関する国際的標準であるOHSAS 18001の認証を受けています。最新の再認証監査は、2017年秋に実施されました。2018年末までに、中国の最新生産現場もOHSAS 18001に代わる職場安全基準であるISO 45001に従った認証を受ける予定です。それに加えて、中心的な役割を果たすグループHSEの創設により、国際レベルでの職場安全衛生がさらに標準化されることになります。

労働災害

広範にわたる職場安全措置にもかかわらず、BRITAグループ全体では2017年に16件の労働災害が発生して総計で519労働日が失われました。これにより事故発生率は百万労働時間あたり4.67です。<sup>4</sup>事故発生率は2017年に全グループで初めて記録されました。それらの事故のうち、69パーセントはタウヌシュタイン(ドイツ)、ピスター(英国)、ノイドルフ(スイス)の各生産拠点で記録されたものです。2017年に、これらの生産現場3拠点における事故発生率は、百万労働時間あたり5.83でした(2016年:6.72)。発生した事故で最もよく見られる原因は、不注意でした。将来的に、事故統計は全生産現場とBRITAグループに関して計算される予定です。

残念ながら、この報告対象期間中に重大な労働災害が1件ありました。あらゆる必要な対処措置が直ちに講じられ、再発を防止するために、事故発生可能性評価がすべての国際拠点で実施されています。他の生産現場では、重大な労働災害や死亡事故は一切ありませんでした。

事故発生率<sup>5</sup>



ヘルスケア

健康的で能力がある従業員は、BRITAがこれからも事業を成功させ、そのビジネス目標を達成し続ける上での基本的な前提条件です。当社が自社従業員の健康・衛生について責任を負うのも、それが理由です。タウヌシュタインの本社だけでなく子会社の多くでも、法的要件を上回る予防的健康対策が提供されている。例えば、BRITA GmbHではインフルエンザ予防接種や一般的なワクチン接種に関する相談だけでなく、全従業員を対象とした皮膚ガン検診や心臓検査、血糖値モニタリングといった各種の変動要因に関する健康・衛生サービスを無料で提供しています。BRITAは、将来的にヘルスケアを従業員のニーズに合わせたものになりたいと考えています。そのため、BRITA GmbHはヘルスケア課題の思慮深い体系化と導入・実施が可能となる方法を現在分析中です。

<sup>1</sup>一部抜粋、全拠点で提供されているすべての給付手当ではありません  
<sup>2</sup>契約が有効な全従業員、LTA(長期契約)を除き2017年から  
<sup>3</sup>2016年以降、ロシアとトルコを含む欧州、オーストラリアを含むアジア。以前はオーストラリアを含む欧州、トルコとロシアを含むアジア  
<sup>4</sup>報告要件に従ったダウンタイムを伴う事故 >= 1日、通勤事故、ただし、それが現地法に従い労働災害だと定められ事故発生率計算に算入されていることが、その前提です。算定基礎：労働者一人あたり年間1,840時間  
<sup>5</sup>タウヌシュタイン(ドイツ)、ピスター(英国)、ノイドルフ(スイス)の生産拠点に該当する指標

目標	達成済み	状況
<b>BRITAアカデミーの創設</b>	● BRITAセールスアカデミーが、EMEA地域で導入される(これまでで80コース) ● 製品研修用のeラーニングプログラム ● イン트라ネットにおける研修機会の情報ページ	3/3
<b>高潜在能力従業員の能力開発を対象としたプログラム拡大</b>	● 管理職従業員の能力開発を目的として確立されたBOLDプログラム ● 現在34人の候補者が、3年のローリングプログラムに参加中	3/3
<b>人事管理の国際化と従業員の海外任務増大</b>	● 国際任命方針の導入 ● 海外赴任前と赴任中の従業員サポートの最適化 ● 海外管理職の社内的な充足に成功	3/3
<b>BRITAにおける職場安全衛生のさらなる標準化</b>	● 全生産現場におけるリスク評価の標準化 ● 国際拠点で職場安全衛生を評価する基準を策定	3/3

○○○ 達成された目標      ○○○ 導入・実施された最初の措置      ○○○ すでに関連性がない/達成されていない目標





世界中で、毎分 24 トンのプラスチックが海に流れ込んでいます。つまり、年間ではおよそ 1,300 万トンのプラスチックが流れ込んでいるわけです。その大半は河川から海に運ばれます。他の海流とともに、五つの大きな海洋渦もプラスチックごみをさらに遠方の島々や南極にまでまき散らす要因です。その結果、沿岸にはプラスチックごみが散乱し、海洋生物の生息域が破壊されているのです。クジラやイルカといった海洋動物は、プラスチック製品に引っかかったり消化できない廃棄物を食べ物と間違えて摂食したりして、無残にも死んでしまいます。海洋生物がプラスチックを食べ物と誤って食べてしまうということは、プラスチック製品が食物連鎖に組み込まれ、人体にも取り込まれるということでもあります。

### Less Plastic is More (プラスチック削減をさらに推進しよう)

創業 50 周年を迎えた際に、BRITA は慈善組織 WDC のメッセージを支持することを決定し、2016 年には「Less Plastic is More (プラスチック削減を推進しよう)」キャンペーンの独占協力パートナーとなりました。BRITA にとって協力は、資金源を提供すること以上に多くの意味があります。目標は、共同で海洋におけるプラスチックの壊滅的な影響に対する意識を高めることです。ここでは、人々が自分たちの習慣を考え直して変えてもらうことに重点が置かれています。とりわけ BRITA の製品は、消費者が自身のプラスチック消費量を減らす様々な可能性を提供しています。例えば、問題の一部である使い捨てペットボトルを使用せず BRITA の浄水を飲むなら、人々は海や動植物の保護に直接貢献できるのです。しかし 2 つのパートナーは、どのようにしてそのメッセージを可能な限り多くの人々に届けるために協力しているのでしょうか？ 従来の広報活動に加え、BRITA と WDC は、Facebook などのソーシャルネットワークを集中的に利用しています。学校訪問の教育活動や、あらゆる年齢層の教師と生徒への明解な教材を提供することも、キャンペーンの取り組み事項のひとつです。学校での活動は、WDC 職員が準備して実施しています。

### 最高の組み合わせ

このパートナーシップは理想的です。キャンペーンの中核メッセージである *Less Plastic is More* (プラスチック削減をさらに推進しよう) が、ペットボトルの水に代わる代替ソリューションを消費者に提供する BRITA とその製品群の販促プレゼンと一致しているからです。さらに、どちらの組織も大きく、機敏性のある、国際拠点を有する組織体系です。これにより、短期間で対応措置を講じることができ、近くに WDC の現地事務所がある BRITA 拠点の意思疎通も非常に密接で直接的になるのです。こうした背景から、このパートナーシップがドイツ資金調達アワード 2017 の「最高企業協力」カテゴリで第 3 位になったのも驚くべきことではありません。アワード授与式のプレゼンターは、私たちのパートナーシップを「最高の組み合わせ」と称していました。



2016 年と 2017 年に、BRITA は Less Plastic is More のキャンペーン支援でこの上ない成功を収めました。

### 数ある共同キャンペーンの最高事例

二者の協力関係でもたらされた数多くの成果は、ドイツ国内の教室訪問中に訪ねた生徒が 1,000 人を超えるなど、申し分ないコラボレーションのさらなる証拠といえるでしょう。さらに、青年層を対象とした特別ワークショップに加えて親子向けのプロジェクト週間やキャンペーンも主催されました。海のプラスチックごみに関する教材は英語とスペイン語に翻訳され、今では英国とスペインでも様々な年齢層の学童を対象とした用途で利用できます。また、十人のブロガーがプラスチックゼロのワークショップに参加しました。セミナー後の持続可能な生活と旅に関するブログ記事で、参加者は日々の生活でプラスチック使用を減らせる可能性を示してクジラとイルカの保護に積極的に貢献するようフォロワーに促しています。ベルリンやハンブルク、ミュンヘン、ヴィースバーデンのドイツ各都市で展開されたポスターはおよそ 500 万人の目にとまり、この教育キャンペーンへは特別な関心を集めました。「Less is More (少ないほど良い)」のモチーフがあしらわれた 5,000 枚のポストカードが、特に「パッケージフリー (商品を包まない) 店舗を中心に配られました。アニメ画像やビデオ、ニュースレターが、プラスチック問題の重大さを分かりやすく示して参加を呼びかけました。こうして様々なルートやイベントを通して数多くの人にメッセージが伝えられたのです。2017 年末に、BRITA の CEO マーカス・ハンカマーはもう 1 年支援を続けてすでに生み出された勢いに弾みをつけることを決めました。

### 国際レベルでの協力参加

WDC との協力は、タウヌシュタインにある BRITA 本社で調整が図られていますが、全世界の子会社もこのプロジェクトに参加し、様々な方法で WDC の目標を現地レベルでサポートしています。欧州、アジア、オーストラリアを拠点とする子会社 11 社は、すでにイルカ、ザトウクジラまたはシャチの養親となっています。そうした養

### 2018 : Less Plastic is More をさらに推進する 1 年

2018 年に関して BRITA と WDC は、成功を収めた広報活動にさらに弾みをつけ、発展させ模範を示して主導する計画を立てています。広報代表者兼グループコーポレートコミュニケーション責任者のザビーネ・ロルフ博士は次のように締めくくっています。「私たちが望んでいるのは BRITA 社内でのプラスチック消費を削減し、他の企業にも同じように対応するよう促して、関連会社やパートナーだけでなく消費者にもそれを実践してもらうことです」とこの「Plastic Challenge (プラスチックチャレンジ)」に関して、WDC は BRITA とともに「A Year for Less Plastic is More (プラスチック削減をさらに推進する 1 年)」というモットーを掲げ、チェックリストやガイド、広報資料を生み出しています。「我々が目指しているのは、一般大衆を参加させることです。私たちの努力とプラスチックに代わる持続可能な代替プラ



毎日、4.2 トンのプラスチックが欧州第 2 の大河であるドナウ川から海へと放出されています。

護を受ける海洋動物を通して、子会社は海洋動物の生活に直接関わり WDC を世の中に広く知られる活動で支援できるだけでなく、海のプラスチックごみが原因となった問題を具体例に基づいて理解することができるのです。

例えば、イタリア BRITA は 2016 世界水の日機会に「イルカ」の群れをきれいな海の大使としてミラノ、ローマに派遣するアイデアを思い付きました。彼らは、道ゆく人たちに海のプラスチックごみがクジラやイルカに及ぼす危険を説明したのです。このゲリラ的取り組みは、印象に残るイメージとなりメディアの記事でも取り上げられました。ビジターの多くがイルカのスナップショットを撮ったりイルカと一緒に自撮りしたりして Facebook や Instagram、Twitter でシェアしました。2017 年秋に、英国子会社は WDC とともに www.notwhalefood.com のウェブサイト立ち上げ、海のプラスチックごみに関する情報を提供し BRITA の浄水を使い捨てペットボトルの水に代わる代替品として紹介しています。

チックについての意見を彼らと交換しました。自らのプラスチック消費を減らすだけでなく積極的に清掃活動に参加し自然からゴミを一掃する支援者を結集したいのです」と、WDC のデビッド・フェンダーは述べています。



オスのイルカのプロッセは、推定年齢 15 歳で BRITA が養親となった海洋動物の頭です。プロッセはスコットランドのモレー湾内域で泳ぐのが大好きで、友達のスปีディーやプリズムと遊んでいる様子がしばしば見られます。それはほとんどの場合、陸からも見ることができます。

WDCは、例えば、ラテンアメリカやカナダ、オーストラリア、スコットランドといった世界各地の研究者と密接に協力しています。彼らは、養護のために受け入れられた海洋動物に関する情報を一般大衆と後援者が確実に受けられるよう保証しています。さらに、関連するフォーラムや作業グループを介してクジラとイルカの生息域に関する決定にも影響を与えています。2018年5月に、BRITAの広報代表者ザビーネ・ロルフ博士はアリソン・ローズとチャーリー・フィリップスに会いました。両氏は、スコットランドの研究ステーションであるスコットランドイルカセンターの取り組みをわずかな職員と数多くのボランティアたちとともに鋭意策定している人物です。

スペイベイ（モレー湾）のスコットランドイルカセンター（SDC）は、インヴァネスから南に60マイルほどのスコットランド北東部野生海岸にあり、3月から10月にかけて年間90,000人のビジターが訪れています。ここで働いている7人の職員と20人のボランティアは、自分たちのことを「クジラとイルカの大使」とみなしています。彼らが担当している任務もそれに伴い広範に及んでおり、ビジターのためのセンターによるガイドツアーやデータ収集を目的とした海上と陸上での動物の日々の観察、学童との遠足、学校訪問など、いくつかの最も重要な事例だけでも枚挙に暇がありません。イングランド出身の動物学者であるアリソン・ローズが2012年からこのセンターの陣頭指揮にあたっています。



モレー湾でのアニマルウォッチングは総合的なもので、クジラとイルカの他にもアシカに加えてウミワシといった鳥類も含まれています。スコットランドイルカセンターは、スコットランド野生動物トラストと連携し、収集されたデータがスコットランドの動物福祉事業のすべてをサポートしています。

#### 持続可能な生息域に関する科学的基礎

このセンターの非常に重要な任務は、その大半がボランティアたちによって実施されているデータ収集を目的とした海岸の視察ですが、例えばどのイルカがいつどこで目撃されたのか、どの船舶が彼らの進路を横切ったのか、他にどのような動物が海上や陸上で生息しているのかといったことを調べています。そうして収集されたデータは、意思決定者や立案者が例えば保護地域の設定を正当化する上での貴重な情報源として利用されています。ボランティアは、そのほとんどがほぼ8ヶ月の期間にわたりこのセンターに居住し、アリソン自身から訓練を受け準備を整えています。「数年前のことですが、ここでパイプラインを敷設するプロジェクトがありました。関連データに基づいて、WDCは夏の時期に建設やその後のパイプライン保守を実施しないようプロジェクトを推進する企業をなんとか説得することができましたが、そのような工事が海洋哺乳類を妨

害して脅かすと実証されたからです」と、アリソン・ローズは語っています。

#### フロッセ、チャーリーおよびケスレットの生息域

WDCを通して養親となる対象のイルカはモレー湾に六頭生息しているため、ここでのさらなる重要な取り組みは「養親」に情報や画像、写真素材を提供することです。これは自然フォトグラファーでありWDCでイルカフィールドオフィサーを務めるチャーリー・フィリップスが担当しています。ソーシャルメディアやブログ、会報誌で、彼はWDC支援者に彼らが養親となった動物の画像やニュースを提供しています。それに加えて、彼はWDC利益に関するビジターや一般大衆向けの重要アンバサダーであり、現地や海外のテレビ・ラジオ局からインタビューを受けています。

「私の仕事は潮目によって左右されます。満潮

か干潮かによって、海上や陸からクジラとイルカを観察したり写真を撮ったりできるのです」と、チャーリー・フィリップスは述べています。彼はイルカ研究の分野に長年携わっており、WDCの仕事はブログ記事の客員執筆者とフリーランスフォトグラファーとして始めました。それから数年経った今はWDCの常勤ですが、自分の仕事やWDCのことを今なお誇りに思っています。そうした中で彼にとって個人的に特筆に値する出来事になったのは、WDCの重要な長年のパートナーであるアバディーン大学が、彼にちなんで一頭のイルカに名前をつけたことでした。チャーリーはケスレットの息子ですが、彼自身はケスレットを長年知っており、その母親もすでに観察して写真を撮っていました。

## クジラとイルカを守る存在

### ファビアン・リターは海洋生物学者で、WDCでは海洋保護部門を率いています。彼は長年にわたり国際捕鯨委員会（IWC）で科学委員会メンバーを務めてきました。

彼がクジラとイルカに夢中になったのは少年の頃からでした。大学での研究により、自分の情熱を職業へと変えたのです。BRITAは、刺激的な彼の仕事について話を聞きました：

#### WDCでは、クジラとイルカのためどのようなことをしているのですか？

私が行っているのは、キャンペーンを主導して海岸の清掃やプレゼンテーション、特別イニシアチブといった関連プロジェクトを策定することです。また、専門家グループに参加して政界や実業界の代表者たちと話をしています。特に関心を寄せているのは、海洋保護区のテーマです。この分野では他の環境団体と協力したり、意思決定者に影響を与えようとする専門的な発言を行ったりしています。国際的な科学コンサルタントとしての経歴のおかげで、捕鯨委員会と20年後のクジラやイルカに関する野外調査では、責任あるクジラの観察に関わる問題にも貢献できます。

#### WDCの取り組みが私たち人間にとって重要なのはなぜですか？

クジラやイルカは、海洋の生態系において重要な役割を果たしており、自然のバランスが保たれています。もしクジラとイルカを保護すれば、この地球ひいては我々自身を守ることもできます。海のプラスチックごみが増え続けているという、私たち人類がクジラやイルカにもたらしている数多くの問題も、我々が自然を不注意に取り扱っている姿を映す証です。WDCでは人々の姿勢を変えるため特に彼らの心に触れようとしています。そのためには、心が動かされる事実が必要ですが、そうした中でも問題の解決に貢献するきっかけとなる事実が求められています。

#### 世界でクジラやイルカをとりわけよく観られるのはどこですか？

それは、数え切れないほどあります。欧州ではブリテン諸島やアゾレス諸島、地中海、ノルウェー、アイスランド、カナリー諸島などです。さらに遠方ではカリフォルニアやニュージーランド、ハワイ、アルゼンチン、オーストラリア、カナダなど、海洋哺乳類を観察する絶好の条件が揃う場所もあります。今でも食用として捕鯨が実施される日本でも、ホエールウォッチングの人気は非常に高まっています。はっきりとしなければならないのは、どの種を見たいのかを決めてそれに依って行き先を選択することです。一般的に言って、クジラの種類は数多くあります。場所によっては、見つからないことがないよう1年ほどの時期なのかを考慮しなければなりません。その点では、WDCが無料で提供しているホエールウォッチングガイドが役に立つでしょう。



ファビアン・リターは、ここバルト海でクジラとイルカの幸福のために全身全霊を捧げていますが、責任あるホエール／ドルフィンウォッチングの専門家でもあります。

#### 責任あるホエールウォッチングとは、どのようなことですか？

ホエールウォッチングのポートは、海洋哺乳類の邪魔になる場合があります。ホエールウォッチングツアー業者にはこのことをはっきりと伝え、適切な思慮深い方法で行動することが求められます。理想的なのは、ホエールウォッチングと対象動物の保護が一体となることでしょう。例えば、海洋動物のデータが船上で集められ、それらの行動が記録される場合がそれに当たります。残念ながら、こうしたケースは実際にはほとんど見受けられません。WDCガイドは、責任あるツアー業者を選ぶ上で役に立ちます。

#### 海洋保護区とは、どのようなものですか？海洋保護区は、クジラやイルカの保護でどのような役割を果たしているのですか？

「海洋保護区」とは、生息地や野生生物を保護するため人間の活動が制限された方法だけで許可されているか全く許可されていない地域のことで。この一般用語は、国立公園や自然保護区といった数多くの様々な種類の保護区を表すものです。各種の保護区には、それぞれに関連した特別な保護措置があります。クジラとイルカは非常に動き回る動物なので、保護区をできるだけ大きく設計し、それらの海洋動物がそこで定期的に交尾や餌を見つける時間に気がつけることが重要です。Whale Homeland（クジラの母国）というWDCのキャンペーンを通して、私たちは海洋保護区が机上だけでなく存在するのではなく、その名の通りとなり監視と強化がなされる効果的な措置が確実に伴うよう国内外で取り組んでいます。





# 一滴、一滴が物を言います!

**マイケ・ラップは、2016年1月からBRITAで企業責任活動を監督してきました。サステナビリティ担当マネージャーである彼女の仕事は、*Balance the Impact* (影響を調整する) というフレーズで要約された持続可能性に対する全社的アプローチが確実に実現され続けるよう対処することです。マイケ・ラップにとって、それはとりわけ目を凝らして聞き耳を立てるといことです。同僚のサブリーナ・ホルチと密接に協力し、数多くの他部門で働く同僚とともに、彼女は問題を特定し、問題への新たなアプローチを生み出し、対策の実施を支援している。**

**ラップさん、あなたがBRITAのサステナビリティ担当マネージャーになってから3年ほど経ちますが、*Balance the Impact* というその時点での新しい企業アプローチが導入された前回CRレポートの発行には密接に関わっていますね。それ以降の進展状況はどうでしょうか?**

全体として、企業責任のエンゲージメントは、その間口が広がっています。2015年に当社の企業カーボンフットプリントを初めて計算した際、私たちが主に重要視していたのはまだ炭素ガス排出の管理ということだったのですが、最初はさらに取り組みを拡大する上での基礎となる望ましいデータ群を生み出したいと考えていました。それ以降、消費と排出の年次計算が社内的に定められて、例えば当社のビジネス活動が生態系に及ぼす影響やどこでそれらを合理的に削減できるかなど、さらに先を見越した対応が可能となりました。いずれにせよ、今では単に環境問題への重点対応以上のものが *Balance the Impact* の背景にはあるということです。当社の意思決定によりBRITAがどこで環境や人々の生活と社会全体に影響を及ぼしているのか、またどうすればそうした影響を利益に転換できるのかを理解することが私たちの目的です。

**こうしたより広範な重点方針は新たな規制上の要件への対応ということでもあるのですか?**

はい、その通りです。当社の顧客や利害関係者が求める期待は高まっています。そうした期待はより明確に詳しく定められて、さらに高まり続けているのです。現在は、体系的な環境保護が現状の体制だとみなされる一方で、労働条件やサプライチェーンにおける環境基準、人権擁護といった他の問題に注目が集まっています。特にこれらの分野では、英国の現代版奴隷法といった新法により、企業としての我々がBRITAへのリスクを効果的に防止するため、必ず当社の製品バリューチェーンにより深く関与する必要があります。サプライチェーンに対する責任がBRITA企業責任活動の重点事項となり、今後さらに重点的に注力していく行動分野であるのもそれが理由です。例えば、2017年には、サプライヤー自己評価質問票の全面的見直しに着手しました。また、新たな要件がサプライヤーの選抜と評価で必ず反映されるよう取り組んでいます。そうした変更は、責任を負う部門からのサポートがあってこそ可能となります。誰もがこの問題の重要性に気づいて協力しているのは非常に嬉しく思います。

**BRITAは、特に新たな国の市場に進出して長年にわたり成長を遂げてきました。そうした状況は、企業責任の管理という点でどのような要求が課せられていますか?**

当社が企業責任の構造化されたアプローチを導入したのはそれほど前でないことを覚えておく必要があります。このことを念頭に置いた上で、我々の進歩はかなりのものでした。国際化の分野では、二つのレベルで課題があるとみています。一方では、本社における企業責任の理解の合理化にも取り組んでいます。一方では、グローバルに考え、子会社をこの共通の定義に含めなければなりません。これを成功させるには、企業文化に影響を与え、経営者レベルに働きかけることが重要です。国際的には、企業責任に関する見解と理解は大きく異なることを考慮することが重要です。欧州では、サステナビリティ問題が消費者に十分に理解されており、それに関連した対応を要求されることさえあります。成長市場である中国のような他の市場では、消費者の意



Balance the Impactのアプローチを同僚たちとの話し合いで全社的に実施しています：マイケ・ラップ サステナビリティ担当マネージャー

識はそれほど高くありません。そのため、誰にでも有効なポジションを見いだすことは必ずしも容易ではないのです。それでも、BRITAには明らかに利点があります。BRITAが、ボトル入りの水に代わる賢明でエコ対応な代替品だという当社のメッセージは世界中で理解しやすいと思います。特に、使い捨てプラスチックによる汚染の増加をめぐる現在の世界的な議論を考えるとなおさらです。これは、各市場に適したアプローチを見つけるための良い基礎となります。

**現在取り組み中である行動分野については、先ほど話されました。サプライチェーンに関する責任以外に、今後の取り組み課題となる問題はどのようなことですか?**

行動分野はマテリアリティ(重要性)分析によって見いだされたものです。つまり、当社とその利害関係者にとって最も重要な問題に注目したということです。その後、それらの問題をグループ化して行動分野にまとめました。現在の課題は、どこで既存の活動を継続できるか、そしてどこで関与を拡大する必要があるかを見極めることです。この場合に物事を優先化するのは難しいのですが、それはもちろんのことすべての行動分野が重要だからです。サプライチェーンの責任は、特に私たちの顧客が私たちがこの問題の最上位にいることを要求するという理由で、私たちの注意を引いているでしょう。BRITAでは長年、環境保全が最優先課題とされてきました。これは、資源を節約するためのあらゆる機会が、原材料の購入量やエネルギー消費量の削減につながるからです。ここでの計画は、既存の環境管理システムをさらに活用することです。個人的には、企業責任へのコミットメントと当社製品のコアを直接結びつけることで、製品責任の領域を最も刺激的なものとして見ています。これは、エコロジカルデザイン、代替材料、環境にやさしい包装、持続可能なイノベーションに関する議論、そしてそれらがどのようにして会社の成功を確実にするために新しい市場または顧客グループを開拓するのに役立つかを意味します。これらはすべて、BRITAにとっては多くの企業と同じように大きな可能性を秘めている刺激的なテーマなのです。

**将来的にどの分野が注目されるのかを聞いてきました。それでも、前回レポート以降に導入・実施されたことで特に誇りに思うことはどのようなことですか?**

企業責任は第1日目から次へと単純に実施されてリストで対応済みのチェックマークが付けられるものではありません。この問題は、組織全体に課題をもたらす小規模な段階を経て初めて実現可能となる集団的取り組みなのです。当社のCRレポートでグラスを満たす多くの水滴があらわれたイメージがふさわしいと思うのもそのためです。企業責任を推進しているあらゆる措置が成功事例です。過去2年では、例えばクジラ・イルカ保護協会との協力や多くの部門の支援を受けたマテリアリティ分析の実施など数多くの事例を思い浮かべます。とはいえ、小規模の対策も多くあります。例えば、官能分析研究所における飲料グラスへの転換などがそうですが、それにより現在では年間15,000個のプラスチック製コップが削減されています。あるいは、閉鎖サイクルでリサイクルされるペーパータオルを最近使い始めたという事実もあります。そして、この種の対策のアイデアが私からではなく、私の同僚や部署の内部から出てきたときは、特にうれしいです。なぜなら、企業責任が社内と社員の考え方の双方に行き渡った表れとなるのはそうした場合だからです。

BRITAが2016年に*Balance the Impact*のスローガンを導入してから、実に多くのことがありました。当社のCO<sub>2</sub>排出を見だして削減する当初の重点対応から、環境保護を超えて、さらに広がり浸透する全体的アプローチとなっているのです。今日では、ビジネス上の意思決定が環境、人々、社会に与える影響を理解し、これらの影響をどのように軽減するか、または影響を受けるすべての人に利益をもたらすようにどのように設計するかに焦点が当てられています。





# 地球に 対する 責任

## 次のステップ

- **エネルギー管理システム：BRITAエネルギー目標の達成（2015年比で20パーセント削減）**
- **炭素管理：BRITA企業カーボンフットプリントの継続した定期的な算定と監査**
- **環境管理：環境指標の拡大とさらなる標準化**
- **環境プログラム：グループ全体目標の更新と具体化**

## 影響のバランス：BRITAにおける環境保護

BRITAは、その企業責任活動のすべてを *Balance the Impact* というスローガンのもとで統合しました。環境保護の観点では、当社がそのビジネス活動により環境に及ぼす影響を記録して削減し続けたいということです。これは、もちろん気候保護に関わることで、資源の保護と素材や原材料の賢明な使用にも関係します。そのためBRITAは、例えば認証を受けた環境・エネルギー管理システムなど、これまでに環境保護の導入・実施が成功した手段やプロセスを利用しています。

### 世界的な環境管理

タウンスシュタイン（ドイツ）、ピスター（英国）、ノイドルフ（スイス）の生産拠点では、ISO 標準 14001 に従った環境管理システムが2011年にすでに導入されています。中国の新生産工場も2018年末までにこの認証を受けることになっています。管理システムは、組織面や機械的なワークフローをより効率的なものとし、それらを段階的に標準化する上で役立てます。そのため、目標を定めた方法によってBRITAグループ全体で環境保護を実現することができます。生産現場では、小さな対策で大きな環境改善ができることが多い。*Balance the Impact* は可能な場合には必ずエネ

ギーと資源の消費削減に重要な貢献を果たすよう子会社において促されるということでもあります。BRITAでは、改善の可能性を特定し、進捗状況を監視できるように、環境指標を世界中で収集しています。

BRITAは環境側面評価を用いてエネルギー、水、廃棄物、化学品、騒音を優先課題としています。これらの分野で、当社は環境負荷の継続的な低減に努めています。環境管理の一環として、安全衛生環境（HSE）部門は社内監査人を提供して年1回の見直しプロセスを支援し、環境プログラムの継続的な発展とデータ収集を管理しています。そのため、この部門はエネルギー担当マネージャー、BEST（BRITA エクセレンスシステム）プログラムコーディネーター、それに海外拠点のHSE担当者と定期的に話し合っています。

### エネルギー管理

製品メーカーであるBRITAにとって、エネルギーの使用はどのような形態であれコスト関連要因となるだけでなく、環境への影響を削減する重要なスタート地点でもあるのです。タウンスシュタイン（ドイツ）とピスター（英国）の生産拠点は、2015年からISO 50001の認証エネルギー管理システムを備えています。執行役員会が署名したエネルギー方針で、BRITAは自社のエネルギーニーズとそれから発生するCO<sub>2</sub>排出の削減にコミットしています。

エネルギー担当マネージャーはファシリティ管理チームの一員であるため、タウンスシュタインでエネルギー管理システムの責任を負っています。このマネージャーは、ピスターにいるエネルギーコーディネーターと密接に協力しています。またエネルギーチームもあり、この部署では改善措置の提案を募って評価しています。このチームは、エンジニアリング、メンテナンス、生産、IT、購入、HR、コントローリングの各部門代表者に加えてBRITAの電気安全担当マネージャーとサステナビリティ担当マネージャーで構成されています。

## 環境のため、ともに

BRITAでは、環境保護が会社のガイドライン原則でしっかりと定められ、管理手引に加えて行動規範でも従業員の指針として記録されています。現在、体系的な環境保護は主に節減の可能性が最も見いだされる生産拠点で実施されています。さらに、全子会社も各国固有の法的要件を満たすだけでなく、大小さまざまな手段を

エネルギー管理システムと環境管理システムは、ともにBRITAが *Balance the Impact* のスローガンに基づいて環境影響を削減する重要なツールといえます。当社は、統一した要件が全社的に遵守されるようさらに子会社でもこの管理システムを導入すべく取り組んでいます。将来的に環境プログラムは、BRITAのCRプログラムの一環としてグループ全体で適用され、継続した改善の弾みとなります。

### 環境保護のネットワーク

2013年からBRITA GmbHは、企業環境保護措置が伴いその効果的な導入・実施で企業を支援する、地方自治体後援の任意協議プログラムであるÖKOPROFIT（エコプロフィット）の一員です。2014年に、BRITAはÖKOPROFITの称号をすでに受けた企業が環境にコミットしている他の企業と地域で定期的に体験や知見を紹介し合うネットワークであるÖKOPROFITクラブへの入会が認められました。

BRITAが参加しているヴィースバーデンÖKOPROFITクラブもドイツのエネルギー効率ネットワーク500の一つとして登録されているため、年間エネルギー消費の削減にひたむきに取り組んでいます。他の企業との意見交換を通して、BRITAは新たな環境保全対策に関わる重要な知見や提案を得ています。

## 環境指標

BRITAは、一連の環境指標を記録して当社の環境パフォーマンスに関する情報を入手しています。2017年には指標システムが10拠点拡大され、現在はさらに増え続けています。2017年は、数々の環境指標が初めて詳細に記録されました。そのため、年度間を通じた指標の直接比較は、現在のところ限定された範囲のみで可能です。

行動	拠点	導入・実施	推定 節減量 (年間)
<b>エネルギー</b>			
LED照明への変更（オフィス）	グローバル	進行中	
圧縮空気システムの試験と最適化	ドイツ	2017年	150,000kWh
エアコンプレッサーの交換	ドイツ	2017年	50,000kWh
エアドライヤーの交換	ドイツ	2017年	20,000kWh
LED照明への変更（生産および倉庫）	CH, UK	2017/2018年	50,000kWh
エネルギー管理に関わる新検針システム	UK	2018年	
<b>モビリティ</b>			
環境に優しい車の方針	DE, ES	2015年	
BRITA社内便のための電気自動車	ドイツ	2016年	
電気自動車用に17基の充電ステーションをさらに設置（総計30基）	ドイツ	2017年	
<b>資源</b>			
リサイクル紙由来の紙製品（オフィス）	グローバル	進行中	
オフィスにおけるリサイクルシステム	グローバル	進行中	
ペーパーレスのワークフロー/オフィス	AUS, JP, ES	進行中	
Purity製品群の内装材をEPSから成形ファイバーに変更	グローバル	2016年	
オフィスにおけるコーヒー紙コップの代替品	JP, UK	2017年	
PaperCircleリサイクルによるペーパータオルへの変更	ドイツ	2018年	
官能分析研究所におけるプラスチック製コップから飲料グラスへの変更	ドイツ	2018年	15,000個のプラスチック製コップ

■ 完了    ■ 継続中    □ 予定



**エネルギー**

ほとんどの場合、BRITA は暖房や機械・設備稼働用の直接エネルギーを天然ガスから得ています。とりわけガスは、主に蒸気発生と冷却の用途から生産で使われています。生産数は高まっていますが、天然ガスの消費はそれでも 2015 年以降は若干減っています。その理由は、エネルギー管理の一環として消費の管理を改善する多種多様な措置が講じられているからです。直接エネルギー需要の総量は、新子会社がデータ収集に組み込まれたため、2016 年から 2017 年にかけて 12.5 パーセント増となりました。

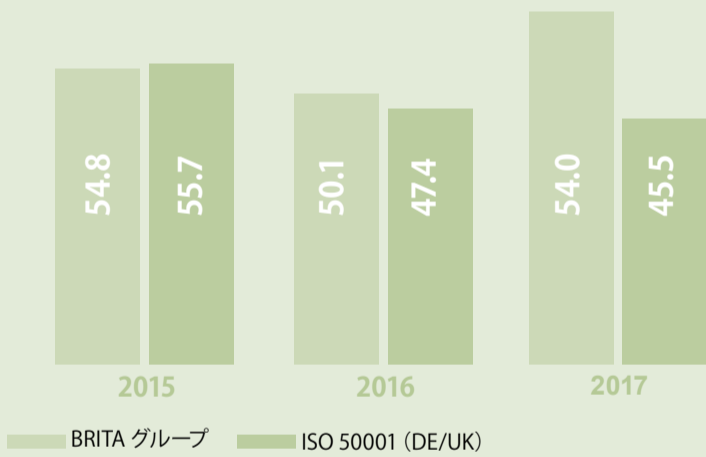
**エネルギー消費 (単位: MWh) :<sup>1</sup>**

	2015	2016	2017
直接エネルギー消費 (MWh)	13,997	14,028	16,001
暖房油	479	677	907
天然ガス	12,671	11,798	11,793
木材ペレット	-	-	339
燃料	847	1,553	2,962
間接エネルギー消費 (MWh)	9,518	9,478	10,661
電力ミックス	781	746	767
再生可能エネルギー	8,737	8,732	9,743
地域暖房	-	-	135
総計 (MWh)	23,515	23,506	26,662

BRITA は、ドイツやイタリア、英国、スイスの生産拠点で認証を受けたエコ電力を使用しているため、その間接エネルギー需要の 90 パーセント超を再生可能資源に基づく電力で満たしています。2017 年の電力消費は前年比増ですが、これは生産拠点をさらに 1ヶ所取り込んで指標記録が拡大されたことで説明がつきます。従来型電力の使用が総エネルギー消費で占める割合はごくわずかにとどまっており、二、三の小規模拠点到に限定されています。

認証エネルギー管理システムが導入されている場所 (タウヌスシュタインおよびピスター) では、売上高との比較でさらにエネルギー消費を削減することができました。2015 年の基準年と比べると 2017 年に必要とされた直接・間接エネルギーは 19 パーセント減でした。つまり、2020 年までに 20 パーセントという目標は、ほぼ達成されたこととなります。BRITA のグループレベルでは、データ収集が子会社を追加して拡大されたため、エネルギー強度が若干高まっています。

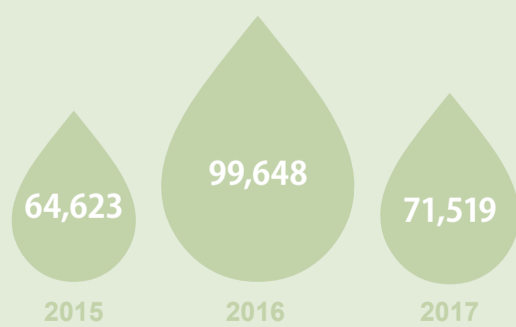
**エネルギー強度 (単位: kWh/1000 €) :<sup>2</sup>**



**水**

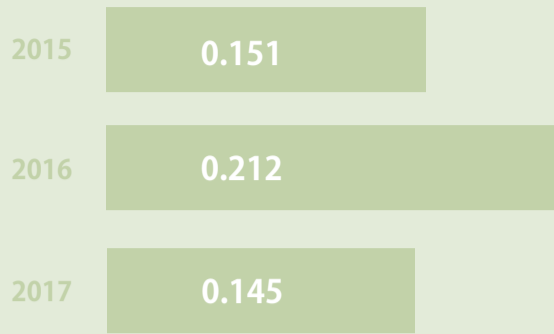
BRITA は、使用する水の 100 パーセントを現地の飲料水供給から得ています。BRITA グループ内で最も消費が多いのは、リサイクルされたカートリッジから回収されたイオン交換樹脂の再生工場が稼働しているタウヌスシュタインの生産拠点です。実際の生産プロセスでは、水は主にフィルターカートリッジを殺菌する蒸気を発生させるかオフィスで使用するために使われています。BRITA は生産やオフィス業務で水消費をさらに削減しようと鋭意取り組んでいます。2015 年と比較して、世界中の消費はおおよそ 10 パーセント高まっています。

**水消費 (単位: m<sup>3</sup>) :<sup>3</sup>**



その理由の一端は、データ収集が子会社を追加して拡大したことに加えて再生される回収されたイオン交換樹脂が増えているためです。BRITA グループ売上高との関連で、水消費は 2015 年からほぼ 4 パーセント減っています。

**水強度 (単位: m<sup>3</sup>/1000 €) :**



**廃棄物と廃水**

BRITA では、生産のほとんどで廃棄物が発生しますが、とりわけ PCC (紙、カード、ボール紙) や残留廃棄物、フォイルの形態が多くなります。すでに梱包された物品が処理されなければならない状況では、追加の作業ステップが 2017 年にフランクフルトの中央倉庫で導入され、物は種類に応じて必ず分別されます。これはリサイクル率を高める上で役立ち、処理コストは下がっています。BRITA で発生する少量の危険廃棄物は、主に再生工場の生産残留物と設備機械類の運用・稼働物です。

2017 年の非危険性廃棄物の総量は 3,592 トンでした。このうち 80 パーセントはリサイクル工場に送られ、11.4 パーセントはエネルギー回収で焼却され、さらに 7 パーセントが再利用されています。再利用される物には、その後の利用のため第三者に供給されているパレットや梱包材などがあります。BRITA グループでは 93 パーセントの非危険性廃棄物とほぼ 99 パーセントの危険廃棄物が生産現場から出ています。様々な措置が講じられていますが、売上高と比較した廃棄物量は 2016 年と 2017 年の期間にほぼ 10 パーセント増となりました。そのため、将来的な焦点は資源のより効率的な使用と廃棄物の全量削減に置かれることとなります。

廃棄物管理の責任元は、安全衛生環境部門の廃棄物管理オフィサーです。管理オフィサーは、ファシリティ管理や他の部門と密接に協力して廃棄物管理を調整しています。各生産現場には廃棄物担当マネージャーがおり、廃棄物管理の最適化に関連したテーマのアイデアを本社の廃棄物担当オフィサーとやり取りしています。

**処理方法ごとの廃棄物量 (単位: トン) :<sup>4</sup>**

	2015	2016	2017
非危険性廃棄物 (単位: トン)	2,756	3,110	3,592
リサイクル	-	-	2,883
焼却 (エネルギー回収による)	-	-	410
焼却	-	-	4
埋め立て	-	-	12
コンポストイング (堆肥化)	-	-	5
再利用	-	-	276
危険廃棄物 (単位: トン)	34	35	42
リサイクル	-	-	4
焼却 (エネルギー回収による)	-	-	38
総計 (単位: トン)	2,790	3,145	3,634

2017 年に、BRITA は全拠点での廃水放出を初めて記録しました。全体では 72,182m<sup>3</sup> の廃水が発生し、ほぼすべてがそれぞれの自治体処理システムへと送られました。タウヌスシュタイン生産拠点の再生工場で使用された水は、下水道に放出される前に内部の処理工場で処理されています。BRITA は水の限界値の継続した監視と厳格な管理を確実に実施していますが、それに加えて独立した外部試験機関が年に何回かそうした数値の遵守を監視しています。これまでのところ、水域が汚染された事案は一切発生していません。

**廃水放出 (単位: m<sup>3</sup>)**

	2017
総廃水量、排出形態:	72,182
自治体廃水処理	71,476
陸水または地表水	706

<sup>1</sup> エネルギーデータは、個々の拠点で記録されたエネルギー消費に基づいています。2016 年には、エネルギーデータが 23 拠点で記録されました。2017 年は 33 拠点となり、新たに生産拠点 1ヶ所が加わっています。小規模の流通販売拠点 5ヶ所はもはや調査には含まれていません。

<sup>2</sup> エネルギー強度 (係数) とはグループ売上高に対する直接・間接エネルギー総消費量の割合を指します。

<sup>3</sup> 2016 年は、会計上の誤りとタウヌスシュタインにおける漏出により消費が高まりました。

<sup>4</sup> BRITA 全グループの 2017 年度廃棄物総量、これ以前はタウヌスシュタイン (ドイツ)、ピスター (英国)、ノイドルフ (スイス) の生産拠点のみでした。

目標	達成済み	状況
<b>エネルギー消費のさらなる削減 (エネルギー管理システム、DE および UK)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最適化措置の導入・実施 (例えば、圧縮空気活用、LED 照明の分野)</li> <li>2015 年以降売上高に比例したエネルギー消費の 19%削減</li> </ul>	
<b>BRITA 企業カーボンフットプリントの年次計算</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2016 年および 2017 年の CO<sub>2</sub> 排出量の記録 2017</li> <li>監査人による限定保証が成功裡に完了 (2017 年)</li> </ul>	
<b>BRITA 子会社をさらに対象として追加するデータ収集の拡大</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10ヶ所の新拠点がデータ収集に統合</li> <li>総計 33 拠点のマップ化 (&gt;90%)</li> </ul>	
<b>環境・資源保護に関する社内通達の強化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四半期ごとの CR ニュースレター</li> <li>従業員向け CR クイズの導入・実施 (2017 年)</li> <li>子会社を WDC パートナーシップに組み込む</li> </ul>	
<b>生産レベルにおける環境面分析の導入</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品開発プロセス (PDP) におけるサステナビリティ問題の統合</li> <li>具体的要件の定義が進行中</li> </ul>	

達成された目標
 一部達成された目標
 すでに関連性がない/達成されていない目標

**BRITA Group**  
**Group Corporate Communications**  
**Heinrich-Hertz-Str. 4**  
**65232 Taunusstein**  
**Germany**

**報道機関からのお問い合わせ先:**

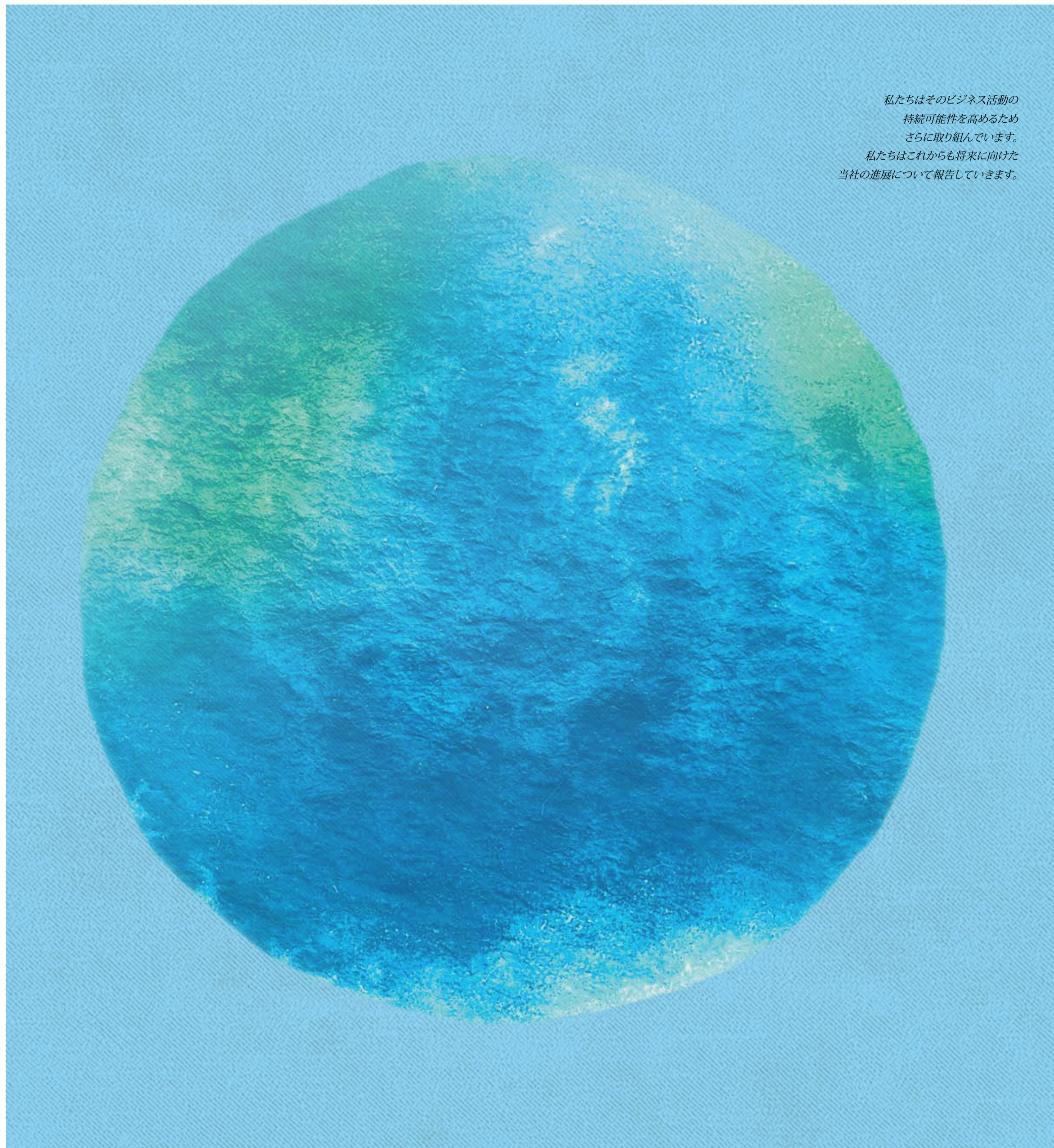
Dr Sabine Rohlff  
Director Group Corporate Communications  
Tel. +49 6128 746 5743  
Email srohloff@brita.net

**Corporate Responsibility部門:**

Meike Rapp  
Sustainability Manager  
Tel. +49 6128 746 5295  
Email mrapp@brita.net



私たちはそのビジネス活動の  
持続可能性を高めるため  
さらに取り組んでいます。  
私たちはこれからも将来に向けた  
当社の進展について報告していきます。



**このレポートについて** - このレポートにはBRITAグループ企業責任 (CR) の一環である活動が記述されており、そのアプローチや目的、行動を紹介しています。本レポートはBRITAユーザーにむけて作成されていますが、従業員やサプライヤー、ビジネスパートナー、一般関係者が目を通すことも意図されています。BRITAグループは2016年に前回の企業責任レポートを発表しました。

最新レポートでは2016年と2017年を取り上げられています。また、2018年前半の重要イベントも盛り込まれています。将来的に、BRITAは企業責任レポートを定期的に発表していきます。次回発行は2020年 (仮) を予定しています。

本レポートの内容はGlobal Reporting Initiative (GRI) 基準に基づいていますが、現時点でその要件を満たしていると断定するものではありません。BRITAは今後もその企業責任レポートを首尾一貫して意義ある形で改善するよう鋭意努力していきます。

BRITA全社に該当する最新の企業責任レポートでは“BRITAグループ”という用語が使用されています。この用語は法的に拘束力を伴う法人を意味するのではなく、むしろBRITA GmbHとその全子会社をより簡便にまとめるためのものです。別途表明されていない限り、このレポートの重要数値はBRITAグループに該当するものです。

読みやすくするため、このレポートでは男性形や女性形の名称を用いることを控えています。人物への言及はすべて両性に等しく当てはまります。

発行日: 2018年秋

